

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 三重県

自治体名： 三重県

担当課名： 教育委員会事務局保健体育課

電話番号： 059-224-2973

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

面積	5,774 km <sup>2</sup>
人口	1,711,370 人
公立中学校数	150 校 (義務教育学校・分校含む)
公立中学校生徒数	43,614人
部活動数	1,511部活
都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

## 地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

三重県では、少子化の進行による生徒数の減少や指導者不足のため、学校部活動を従前と同様の体制で運営することが難しくなっており、ご学校や地域によっては存続が厳しい状況にあるが、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により、生徒の活動の場を整備する必要がある。

三重県では、各市町によって、中学校の数や、生徒数、部活動の種類、受入団体、指導者や

活動場所、移動手段の状況等が異なり、直面している課題もさまざまであることから、画一的に推進していくことは困難な状況にある。このため、各市町の状況を把握し、好事例の共有等を図るとともに、地域の実状に応じた取組を進める必要がある。まずは、部活動に外部指導者を活用するなどの地域連携から始めたり、可能な部活動から総合型地域スポーツクラブ等に地域移行したりするなど、中学校における休日の部活動の

段階的な地域連携・地域移行を進めている。



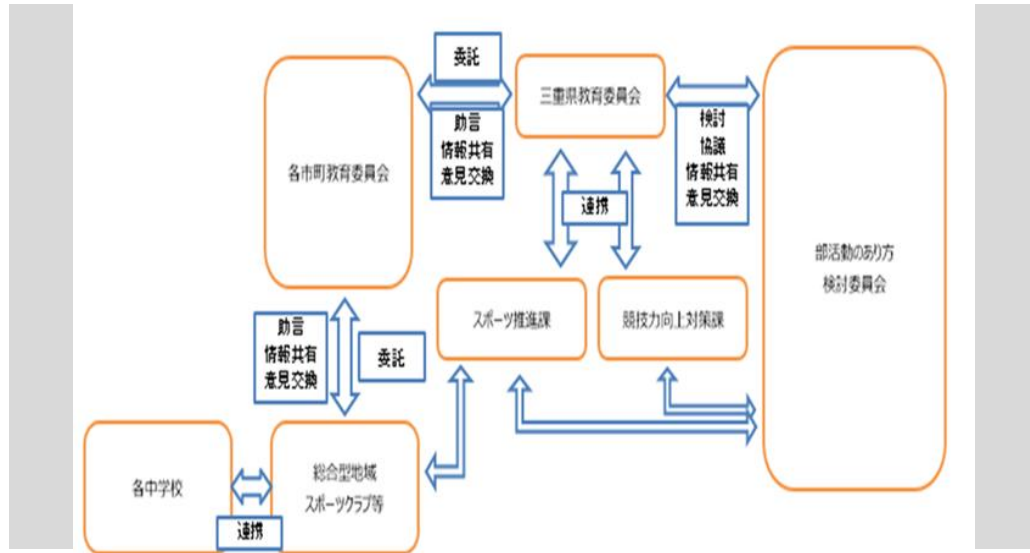
平成30年との比較 : 令和 7年では 1, 4 9 6 人 ( 3 7 学級分) の減少  
 : 令和13年では 3, 2 2 1 人 ( 8 1 学級分) の減少  
 : 令和19年では 6, 1 9 8 人 ( 1 5 5 学級分) の減少

※1学級40人で換算 三重県ホームページより

## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（都道府県における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会（保健体育課）

主に、市町等教育委員会との連絡・調整、指導助言を担っている。また「部活動のあり方検討委員会」を開催し、有識者の意見をまとめ、地域のニーズを把握し、新たなスポーツ・文化芸術活動のあり方を検討している。

##### ◎首長部局（スポーツ推進課）

主に、県スポーツ協会と連携し、市町のスポーツ課・市町のスポーツ協会と連携している。総合型地域スポーツクラブのニーズを把握し、新たなスポーツ・文化芸術活動のあり方を検討している。

### 年間の事業スケジュール

- 令和6年 5月 第1回部活動のあり方意見交換会（オンライン開催）
- 6月 第1回部活動のあり方作業部会
- 7月 第1回部活動のあり方検討委員会
- 9月 第2回部活動のあり方意見交換会（参集にて開催）
- 11月 第2回部活動のあり方作業部会
- 12月 第2回部活動のあり方検討委員会
- 令和7年 2月 第3回部活動のあり方意見交換会（オンライン開催）  
人材バンク運用開始
- 3月 第3回部活動のあり方検討委員会

## 2.実証内容と成果

**ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備**

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

広域的な活動を行う部活動改革コーディネーターを配置し、関係団体・市町等の連絡・調整・指導助言を行った。

##### 取組の成果

部活動改革コーディネーターが各市町に訪問やオンライン相談を行い、部活動の地域移行における協議会での協議の状況、課題解決に向けた対応策、現在の地域移行の進捗状況や今後の取組予定などを聞き取るとともに、必要に応じて、指導助言を行いました。また、他市町の好事例や対応策に対する指導助言を行うなど丁寧に情報を共有することができた。さらに、県内地域移行の受け入れ先となっている、総合型地域スポーツクラブの活動の様子を視察した。

##### コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・7月 あのうスポーツクラブ主催 津市安濃・芸能・美里地域中学校合同部活動の視察
- ・7月 総合型地域スポーツクラブ「楠スポーツクラブ」事務局の訪問
- ・9月 総合型地域スポーツクラブ「元気アップこものスポーツクラブ」活動の視察
- ・11月 日本スポーツ協会東海ブロッククラブネットワークアクションへの参加
- ・12月 皇學館大学と伊勢市内中学校陸上競技部合同練習会の視察
- ・12月 三重県スポーツ協会主催 部活動の地域移行に向けた研修会への参加
- ・2月 皇學館大学と伊勢市内中学校陸上競技部合同練習会の視察
- ・2月 桑名市教育委員会主催「一般社団法人アスリートキャリアセンター」指導者研修会への参加
- ・2月 総合型地域スポーツクラブ「クラブ志摩」活動の視察
- ・2月 総合型地域スポーツクラブ「さんさん」活動の視察

・この他にも、県内29市町教育委員会に訪問及びオンラインで面談を行い、課題解決に向けた対応策や、現在の地域移行の進捗状況や今後の取組予定の確認、他市町の好事例の共有など、情報共有を行った。

##### 今後の課題と対応方針

今後も、県内29市町の教育委員会や受け入れ団体を訪問し、各市町の実情に応じた取組を進めていくための連絡調整・指導助言を行う。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
**イ：指導者の質の保障・量の確保**  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

### 取組事項

部活動の地域移行を進めるにあたり、指導者の確保が各市町の大きな課題となっているが、こうした課題の解決に少しでもつなげられるよう、指導者を必要とする市町と地域クラブ等での指導を希望する方をWebサイト上でマッチングする、「みえ地域クラブ活動人材バンク」を開設した。

### 人材バンクの登録人数

92名（3月14日現在）

### 人材バンクの年齢構成

10代	5名
20代	15名
30代	14名
40代	23名
50代	16名
60代以上	19名

### 登録者属性

自営業、個人事業者、会社員をはじめ、公務員、兼職兼業で指導を希望する教員や大学生などが登録されている。

### 種目

チームスポーツ、個人スポーツともに多くの種目において、指導希望者が集まっている。また、学校部活動にはないような、種目の指導ができる指導者の登録もある。

### 資格有無

登録の際、資格の有無については、指定しておらず、マッチングを行う市町や地域クラブ等において資格の有無を確認することとなっている。

### 取組の成果

「みえ地域クラブ活動人材バンク」は、開設、運用開始からの日数がまだ浅いため、マッチングから指導へ至ったケースは、まだない。しかし、本システムは市町と共有するシステムであり、同じシステムを利用している近隣県とのリンクも可能であるため、広域的な人材確保につなげていくことができる。今後は、人材バンクの周知を図り、登録者及び募集する地域クラブ等を増やしていくことで、指導者不足や地域クラブ等の確保という課題の解決につなげていきたいと考える。そのことが、将来にわたり、子どもたちが希望するスポーツ・文化芸術活動に取り組む場の確保につながっていくと期待する。



## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

**ウ：関係団体・分野との連携強化**

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

令和6年9月20日（金）  
部活動のあり方意見交換会

##### 【内容】

- 県教育委員会から現状説明
  - ・運動部について
  - ・文化部について

○部活動地域移行について取組報告【菰野町】

- 意見交換会〔グループ分け①〕
- 意見交換会〔グループ分け②〕

これまで感染症対策及び移動時間短縮のためオンラインにて情報共有を行うことが多かった意見交換会を参集で行った。

県内から43名の参加者が参集し、先進地の事例から学ぶとともに、それぞれの市町が抱える課題について意見交換を行った。

グループワークでは、近隣市町との交流や、同規模自治体との交流を行い、情報交換を行った。

また会議後も担当者が会場に残り、意見交換する姿が見られ、市町担当者同士の横のつながりも生まれた有意義な機会となった。

##### 取組の成果

##### 【参加者からの感想（抜粋）】

- ・近隣市町で意見交換できたのがよかった。
- ・対面で多くの市町の方とお話させていただき、濃密な情報共有もできたため、今回この形で開催していただき大変有意義な場となった。
- ・今回の菰野町のように実際に地域移行が進んでいる取組報告を聞くことは有意義である。
- ・参集は移動に時間がかかるが、得る情報は多いので時々開催するのは良いと思った。
- ・なかなか進まない悩みは他の市町も同じところが多く、気持ちが楽になった。
- ・表の話と、表に見えない話があるので、今回の対面には意義があると感じた（伝達ベースの会議はオンラインがありがたい）。
- ・用紙や付箋等工夫をしていただき、話が進むきっかけとなった。グループでの情報共有をもっと長い時間したかった。
- ・本町と同規模の自治体と話が出来て、同じ内容の課題にぶつかっていることもわかった。
- ・話し合ってみて、目指している地域移行の形が、似ている地域ごとのグループにしてもらうのも課題等が共通していて良いように感じた。
- ・情報交換の機会として有意義だった。菰野町のような事例紹介もありがたい。
- ・参集で開催していただけたら、情報共有がよりしやすくなりありがたかった。なかなか市としても進まない状況だが、できることを地道にコツコツと積み重ねていきたいと思う。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

本事業においては、県内7市町において、総合型地域スポーツクラブや、市町教育委員会が実施主体となり、地域クラブ活動を行った。総合型地域スポーツクラブにおける活動と、市町が主体となって行った拠点型活動、競技団体が主体となって行う活動と、様々なパターンでの活動であった。

県の取組としては、昨年度に引き続き、部活動改革コーディネーターによる、29市町及び各地の総合型地域スポーツクラブとの連携など、広域的に活動をし、県内の取組状況の把握や、好事例の共有などを行った。また、県内各市町共通の課題である、指導者確保のための、「みえ地域クラブ活動人材バンク」の構築、運用を開始した。

#### ●成果の評価

様々なパターンで活動を行うことで、今後の各市町における地域クラブ活動に向けて、参考となる事例や、課題が見えてきたことが良い点であったと思う。県においては、昨年度に引き続いて行った部活動改革コーディネーターの任用はもちろんだが、指導者確保のための人材バンクの運用を開始したことが、県内各市町における部活動地域移行の大きな一歩となった。

#### ●今後に向けて

県においても、国の方向性にもあるように、地域クラブ活動の認定要件などについて、検討を進めていく必要がある。また、地域の実情に応じたゴールイメージを提案することも必要である。各市町共通の課題としては、受益者負担や市町単費の確保など、今後、地域クラブ活動を自走させていくための、収支構造の構築が挙げられている。さらに、今年度検討することができなかった困窮世帯への支援の方法などについても、各市町と連携し、検討していく必要があると考える。また、各市町においては、指導者だけではなく、コーディネーター的な役割を担う人材の確保についての声も聞かれるが、人材バンクを活用していくことで、この課題解決につなげていければと考える。今後、県内各市町において、様々な形で部活動の地域移行が進められていくと考えますが、県としてはスポーツ分野だけでなく文化芸術分野とも連携し、足並みを揃えて取組を進めていくこと、関係部局、関係機関・関係団体との連携を深め、同じ方向性で地域移行を進めていくことの必要性があると考えている。

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ<sup>o</sup>

令和5年度～7年度改革推進期間における休日の部活動の地域連携・地域移行イメージ

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度以降
国	○改革推進期間 国実証事業 国庫補助事業等（財源確保）			
県	中学校の休日の部活動の地域移行に向けたあり方検討委員会（協議会）の開催 部活動ガイドラインおよび新たな地域クラブ活動方針の作成 指導者の資質向上等に係る研修会の実施 各市町担当者との意見交換会の実施 部活動の地域連携・地域移行に向けた環境整備をサポートするための相談窓口の設置 地域文化クラブ活動体制整備事業による市町の支援 兼職兼業の整備・実施			推抄管理 人材育成 先進事例情報提供・市町への助言等
市町・学校	協議会の設置 管内実態の把握、方針等の作成 部活動の地域移行に係る周知（教職員、保護者・生徒及び地域） 関係団体等の協力のもと、部活動地域移行に向けての体制整備 休日の部活動の段階的な地域連携・地域移行を開始 兼職兼業の整備・実施			○協議会の定期開催 ・地域連携・地域移行の推進 ・地域連携・地域移行の進捗管理 ※地域連携・地域移行の推進については別紙イメージ図参照

※市町・学校・部活動によって、実施主体等が混在する見込み

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 三重県 四日市市

自治体名： 三重県四日市市

担当課名： 教育委員会指導課

電話番号： 059-354-8142

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

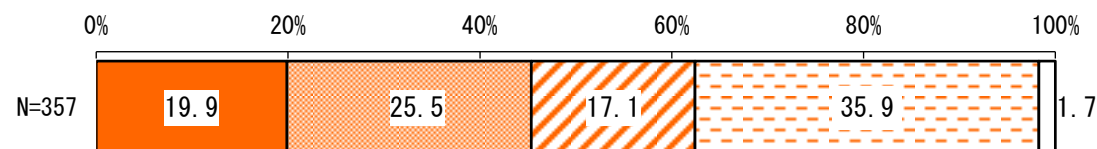
面積	206.44 km <sup>2</sup>
人口	306,614 人 (令和6年12月1日現在)
公立中学校数	22 校
公立中学校生徒数	7,476 人 (令和6年4月1日現在)
部活動数	197 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

○市内22中学校には、約200の運動部活動がある。しかし、少子化による生徒数の減少、それに伴う教職員数の減少により、令和元年から10部活ほどが休部ならびに廃部となっている。また、複数の教員で部活動の顧問をすることが困難になってきている。生徒数の減少により、競技によっては単一校で試合に参加することができない学校も増えてきており、合同チームによって試合参加が可能となる現状がある。

○また、令和6年度に市内中学校教職員を対象に市教育委員会が実施したアンケート調査の結果からは、現在部活動顧問を務めている教員のうち、競技経験がなく技術指導に自信がない教員が、全体の半分以上を占めていることが分かっている。「休日の部活動指導を希望しない」と回答している教員も半分以上となっており、教職員の働き方改革の視点からも、部活動改革が急務となっている現状がある。

現在顧問をされている部活動について、競技（活動）経験がありますか。  
また、技術指導は可能ですか。

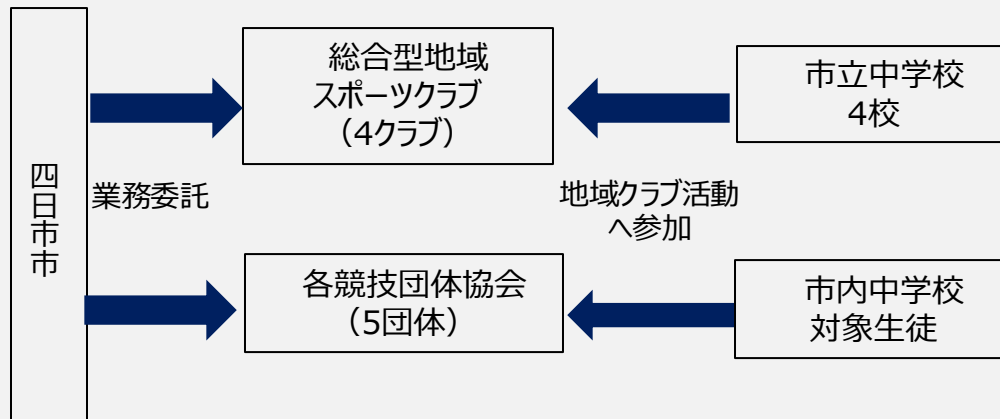


- 十分な競技（活動）経験があり、技術指導ができる
- 競技（活動）経験があり、基本的な技術指導ができる
- 競技（活動）経験はないが、基本的な技術指導はできる
- 競技（活動）経験はなく、技術指導をすることができない
- 無回答

## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（四日市市）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会

「四日市市部活動在り方検討会（市協議会）」の準備・運営、各団体との連携、委託契約の締結、契約に基づく事業の指導助言、報告の受理および委託費の支払い、事業計画ならびに報告作成等、実質的運営に関わる事務全般

##### ◎首長部局

四日市市部活動在り方検討会、担当者ワーキンググループへの参画

### 年間の事業スケジュール

令和6年4月	総合型地域スポーツクラブ拠点校における実施、拠点型活動の活動開始（剣道、野球、柔道、ハンドボール）
令和6年5月	市スポーツ協会・文化協会、各種競技団体、総合型地域スポーツクラブとの会議等
令和6年6月	市役所内担当者ワーキンググループ
令和6年7月	第1回部活動在り方検討会
令和6年8月	拠点型活動の活動開始（テニス） ※市独自事業 第2回部活動在り方検討会
令和6年9月	各種目協会との令和7年度に向けた協議・調整
令和6年10月	各種目協会との調整 先進地視察（千葉県柏市・東京都日野市）
令和6年11月	第3回部活動在り方検討会
令和6年12月	各種課題解決に向けた調整
令和7年1月	令和7年度地域クラブ活動実施に向けた調整
令和7年2月	第4回部活動在り方検討会 令和7年度拠点型活動担当者会議 事業完了報告書・成果報告書等作成
令和7年3月	参加希望調査実施

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	22校	実施した地域クラブ総数	24 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		24 クラブ（42 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		
全体の指導者数	87 人	全体の運営スタッフ数	16 人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に (新)を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
楠スポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ	軟式野球 サッカー ソフトテニス 陸上競技 卓球 バレーボール	原則毎週末 (平日も部分的に活動あり)	休日午前中等	各学年 約30～ 40名	通年	楠中学校等	13 人	2 人 (内、兼務0人)	なし	中体連・協会共に部活動で参加
うつべ☆スター	総合型地域スポーツクラブ	軟式野球 バスケットボール バレーボール ソフトテニス 卓球 ソフトボール	原則毎週末 (平日も部分的に活動あり)	休日午前中等	各学年 約70～ 90名	通年	内部中学校等	9 人	3 人 (内、兼務0人)	なし	中体連・協会共に部活動で参加
さんさん	総合型地域スポーツクラブ	軟式野球 バスケットボール バレーボール	原則毎週末 (平日も部分的に活動あり)	休日午前中等	1・2年生 各約20名	通年	三重平中学校等	8 人	2 人 (内、兼務0人)	なし	中体連・協会共に部活動で参加
ビバ・橋北	総合型地域スポーツクラブ	軟式野球 バレーボール	原則毎週末 (平日も部分的に活動あり)	休日午前中等	各学年 約10名	通年	橋北中学校等	3人	2 人 (内、兼務0人)	なし	中体連・協会共に部活動で参加

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
四日市中学生剣道合同稽古会	四日市剣道協会	剣道	月1～2回	休日午前中等	各学年約50～60名	通年	四日市市三浜文化会館ほか	18人	2人 (内、兼務0人)	なし	大会未参加
四日市クラブ	軟式野球連盟四日市支部	軟式野球	月1～2回	休日午前中等	各学年約50～60名	通年	市内野球場、学校施設等	19人	1人 (内、兼務0人)	なし	希望者を3チームに分けて協会大会へ参加
四日市ハンドボールスクール	四日市ハンドボール協会	ハンドボール	月1回程度	休日午前中等	1・2年生各約80名	通年	四日市市霞ヶ浦体育館、市内学校施設等	11人	1人 (内、兼務0人)	なし	大会未参加
四日市中学生柔道稽古会	四日市地区柔道会	柔道	月1回程度	休日午前中等	各学年8名	通年	市内学校施設	12名	3人 (内、兼務0人)	なし	交流大会に参加 (個人戦)
四日市中学生テニス練習会	三重県中学生テニス連盟三泗支部	硬式テニス	月1回程度	休日午前中等	1年生10名 2年生24名	8月以降	市内学校施設	3名	1人 (内、兼務0人)	なし	大会未参加

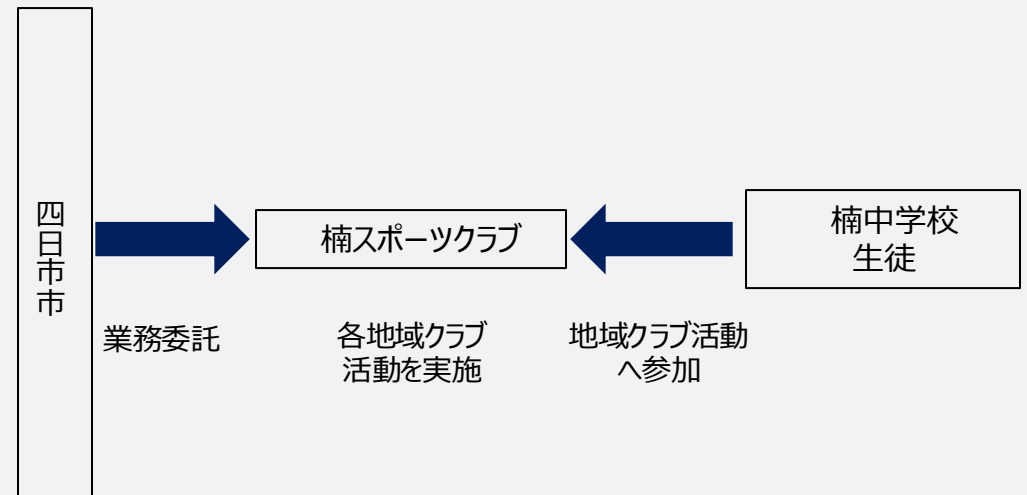
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ●楠スポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技、バレーボール、サッカー、軟式野球、ソフトテニス、卓球
運営団体名	楠スポーツクラブ
期間と日数	各種目通年実施 休日どちらか1日3時間程度 平日も指導する種目もあり
指導者の主な属性	地域指導者
活動場所	四日市市立楠中学校等
主な移動手段	徒歩・自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	令和6年度はなし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

#### ●運営体制図（四日市市）



#### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

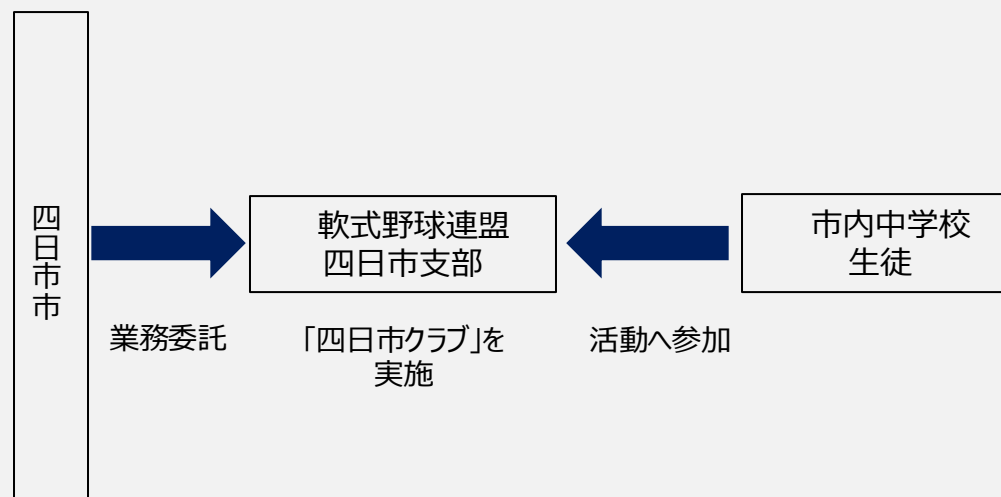
- 統括責任者
  - 役割：活動における管理者として、学校、行政との連携を行う
- 指導者
  - 役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う
- みまもり隊員（運営補助者）
  - 役割：活動において、主任指導者の補助として、指導を行う

## 主な取組例

### ● 四日市クラブ（軟式野球） 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球
運営団体名	軟式野球連盟四日市支部
期間と日数	月1～2回程度 夏季の大会出場前は週3回程度実施
指導者の主な属性	兼職兼業の教職員
活動場所	市内野球場、学校施設等
主な移動手段	自転車・自家用車による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	令和6年度はなし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

### ● 運営体制図（四日市市）



### ● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者
  - 役割：活動における管理者として、保護者、行政との連携を行う
- 指導者
  - 役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

(1) 現在の主管課である教育委員会指導課において、学校、各協会や競技団体、実施主体との連絡調整・指導助言を行う。

(2) 部活動在り方検討会において、将来的な運営団体の設立を含めた運営体制の検討・整備を行う。

(3) 各実施主体において、団体内コーディネーター（担当者）が行政・学校との連絡調整や指導者の指導助言を行う。

##### 取組の成果

(1) 部活動在り方検討会での協議・決定により年間の取組を進めることができるよう、準備・運営にあたった。校長会とも継続的に連携し、綿密な連絡調整を行った。**各関係者・関係団体との連絡調整の結果、「令和8年度の中学校3年生の活動終了後に、休日の学校部活動を終了し、地域クラブ活動に移行する」という目標設定を行い、児童生徒・保護者・関係者への周知を行うことができた。**また、市スポーツ協会・文化協会のみならず、14の競技団体と連絡調整を行い、**令和6・7年度の全競技活動実施を実現した。**既に活動を行っている実施主体とも日常的な業務について連携を継続した。

(2) 現状抱えている業務の確認と、今後見通される業務量の増大に対応するため、令和7年度以降の人員配置増加を含む運営体制強化を、予算確保とあわせて決定することができた。あわせて、市役所内の機構改革による運営体制整備に向けた情報収集と準備を行った。また、令和9年度以降の運営団体設立・稼働に向けた検討・整備を進めることができた。

(3) 各実施主体におけるコーディネーター（担当者）が、運営全般・事務的業務両面における指導助言を行うことができた。実施主体と学校が毎月行う定例会議に行政担当者も出席し、連携を深めたケースもあった。

##### 今後の課題と対応方針

- 事業拡大に伴い、校長会・各学校・スポーツ協会・文化協会のみならず、実施主体となる競技団体の数が増加している。それに合わせて、連絡調整の対象、回数、内容も大幅に増加しており、きめ細かな対応を担保できる行政側の担当組織整備が必要である。→機構改革による専門の推進室を設置して対応するとともに、市長部局との連携・協働・役割分担を強化し、スムーズな主管課移行の在り方を模索する。
- アプリやクラウドなどICTを活用した情報共有・連絡システムの構築が必要であり、今後導入する。それにより業務負担の軽減にもつなげる。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

##### 取組事項

(1) 本事業に取り組む各団体が指導者を選定・任用する。その際、基準となる事項や基本的な研修事項を、市委託契約仕様書において定め、説明や研修を実施したうえで指導活動を開始する体制を取る。

(2) 基本研修で確認すべき事項、学校部活動における顧問への指導事項など、参考となる情報を行政側から各団体に提供する。

(3) 三重県教育委員会が実施するオンデマンド研修を周知し、活用するよう要請する。

##### 取組の成果と課題

- 指導者の量の確保については、今年度も各実施主体に実際の人材確保を委託した。昨年度から継続して実施している団体においては、指導者確保が進み、活動の拡大・充実が図られた。
- 一方、今年度が取組の初年度だった団体もあり、指導者の確保に時間を要し実際の指導活動開始が遅れたこともあった。来年度以降、市としても県教育委員会が運営する人材バンクを活用し、指導者の量の確保を進める。
- 指導者の質の確保においては、指導者マニュアルを教育委員会が作成し、提供した地域クラブもある。来年度以降も、初年度の取り組みの団体には運営支援としてそのようなマニュアルを提供するとともに、そのアップデートを行う。
- 来年度、市が主催する研修プログラムを早期に整備し、確実に実施する。

##### 事前説明や指導員への研修内容（委託仕様書より）

各実施主体は、委託事業の実施にあたり、活動を開始するまでに、

①対象活動の顧問教員等及び生徒・保護者への説明

② 配置される指導員への研修 を行う。

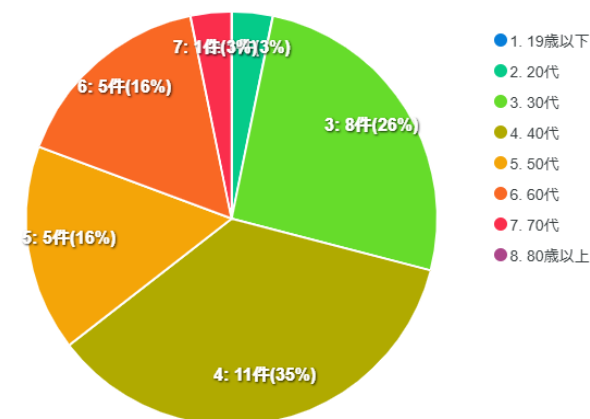
※ ① について：四日市市の部活動ガイドライン、指導指針、該当競技・活動の学校部活動顧問教員との関わりなどに関する内容を踏まえること。

※ ② について：四日市市の部活動ガイドライン、平日の部活動指導を行っている顧問教員との連携・協力、施設の管理方法などに関する内容を踏まえること。

##### 受講者の声

- 学校との連携(指導内容の確認)、地域団体との連携(指導体制の協力)など、まだまだ未想定の部分があるため、今後協議しながらの課題改善が必要だと感じた。

##### 指導者年齢構成（総括アンケートより）



## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

**ウ：関係団体・分野との連携強化**

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

### 取組内容

#### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

(1) 関係団体ならびに行政関係各課の代表が、部活動在り方検討会の委員として参画し、協議を行う。

(2) 実務担当者が校長会をはじめ、各競技団体等を訪問し、活動主旨の理解醸成とともに、実施に向けた連絡調整、意見聴取、説明等を行う。

(3) 情報発信を強化し、関係団体・分野へ広く周知を図る。

##### 取組の成果

(1) 部活動在り方検討会での協議・決定により年間の取組を進めることができるよう、準備・運営にあたった。各関係者・関係団体との連絡調整の結果、「令和8年度の中学校3年生の活動終了後に、休日の学校部活動を終了し、地域クラブ活動に移行する」という目標設定を行い、児童生徒・保護者・関係者への周知を行うことができた。また、市スポーツ協会・文化協会のみならず、14の競技団体と連絡調整を行い、令和6・7年度の全競技活動実施を実現した。

(2) 担当者の訪問による連携と合わせて、地域クラブ活動（拠点型活動）担当者会議を2回開催し、今後の方向性や課題共有、実務実施への認識のすり合わせを行った。

(3) 周知にかかる文書を関係各所へ発出し、現状と課題や今後の市としての方向性、取組の進捗状況を共有することができた。

##### 部活動

1	外部有識者（大学教授）
2	外部有識者（市スポーツ協会）
3	中学校長会代表
4	中学校長会代表
5	中学校教頭会代表
6	三重県中学校体育連盟三泗支部支部長
7	三重県中学校吹奏楽連盟常任理事
8	総合型地域スポーツクラブ代表
9	四日市市スポーツ少年団
10	教職員代表
11	四日市市PTA連絡協議会
12	スポーツ課
13	文化課
14	教育委員会指導課
15	教育委員会学校教育課

##### 今後の課題と対応方針

- 関係各所への連携を強化するために、担当者会議を定例化するなど、協議を深めるシステム構築を行う。
- 今年度、本市の地域移行・地域展開にかかる具体的な目標設定を広く周知することができたため、その実現に向けた取組の進捗状況、関連情報の発信を、より強化する。



## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組




### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実①

##### 取組事項

- ①体の成長を考慮して軟式球で野球がしたい
- ②中学から初めて野球に取り組みたい
- ③経済的・家庭的負担の少ない環境で野球がしたい
- ④学校生活とスポーツ活動の無理のない両立を目指したいといった多様なニーズに応えるための軟式野球地域クラブ活動として、チームを発足。令和5年度から活動を開始。令和6年度は活動を拡充するとともに、連盟主催の大会に地域クラブチームとして出場を試みた。

##### 活動の詳細

参加人数	約60名を3つにチーム分け	指導者数	計19人
属性	拠点型活動（競技団体が主催する活動）		
具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 三重県軟式野球連盟四日市支部が主催し、「四日市クラブ」として運営。</li> <li>● 練習会だけでなく、ブロック別に分けたり、学年別に分けたりして、他地区の選抜チームとの練習試合を実施している。</li> <li>● 今年度は、東・西・南の3チームで練習や試合を組み、秋の県大会につながる軟式野球連盟の地区予選大会に地域チームで出場した。</li> </ul>		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 楽しく野球ができた。いろいろな友達ができて楽しかった。</li> <li>● 中学からはじめて野球で、初心者ですが、ご指導いただき、楽しく参加させていただきさらに野球が好きになりました。</li> <li>● 試合回数が増えると練習のモチベーションも上がるので、そのような機会がもっとあればいいなと思った。</li> </ul>		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域クラブとして大会参加するなど前進した年度であった。保護者の方も協力的で助かった。依然として中学教員が兼業で指導していることで成り立っている部分も多々ある。（指導者）</li> <li>● 自身の仕事の予定やプライベートの予定、この活動の明確なビジョンが見えてなかったことなどにより、積極的に参加することができなかった。地域指導者として、今後この活動にどのように関わっていくかをきちんと考えないといけないと感じている。（指導者）</li> <li>● たくさんの指導者の方の協力でたくさんの子供達の中い練習が出来ました。これからもよろしくお願いいたします。（保護者）</li> <li>● 初心者で野球を始めたのですが、他校の先生方からも温かくご指導いただけて、クラブのメンバーの雰囲気も温かいそうなので安心です。（保護者）</li> </ul>		
運営経費	令和6年度は市予算・スポーツ庁実証事業費予算により実施	活動の様子	

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実②

##### 取組の成果

- 参加した中学生全員を対象として配布したアンケート調査の結果、20名から回答があった。今年度の活動に対して、回答者の35%（7名）が「どちらかという満足している」、回答者の65%（13名）が「満足している」と答え、両方を合わせた肯定的な回答は100%となった。
- 実施主体のコーディネーター（担当者）のリーダーシップにより、学校部活動のチーム作りと、四日市クラブ（地域クラブ活動）のチーム作りを並行して実施できる日程が計画され、市内関係者の共通理解のもと、大会参加に向けた準備が進められることとなった。
- チーム編成をブロック別とすることに関わり、指導者の配置も原則居住区に近いチームを担当するようにしたことにより、指導者の負担軽減と、持続可能な参画を進めることができた。

#### チーム編成について

チーム編成は中学校区を基準に編成しています。

今大会はエントリー人数の関係や会場の関係で、**東ブロックと北ブロックを合わせて1チームの編成とします。**

チームの人数が多くなりますが、その分普段できない実践的な練習やチーム内での競争、新しいポジションへの挑戦など、互いに切磋琢磨しながらの相乗効果を期待しています。

四日市クラブ	
<b>東ブロック</b> (近鉄四日市駅) ★中部・橋北・港 ★山手・羽津	<b>西ブロック</b> (清の山線駅) ★桜・三滝・西陵 ★大池・三重平
<b>南ブロック</b> (あすなろ駅) ★南・内部 ★西笹川・笹川・常盤 ★塩浜・桶	<b>北ブロック</b> (富田駅) ★保々・西朝明・朝明 ★富洲原・富田

YOKKAICHI  
EAST/NORTH

YOKKAICHI  
SOUTH

YOKKAICHI  
WEST

四日市クラブ チームミーティング資料（令和6年7月15日）より

##### 今後の課題と対応方針

- 連絡手段・・・Googleクラスルームとホームページの運営  
→令和7年度からはアプリを活用予定
- ブロックごとの人数の偏りについて  
→他団体と対話しながらブロック編成を令和8年までに完了
- 事務作業の負担・・・業務月報、出納帳作成、請求、税務処理等  
→会計担当者等の役割分担と書類のクラウド化、行政担当からの支援
- 他競技の活動への成果の共有  
→担当者会議、周知文書等の機会やツールを用いて行政担当からも発信

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等① ※事業計画外であったが、年度内に検討に着手

#### 取組事項

(1) 地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、拡充していく事業において将来的に必要となる収支構造を試算することで、適切な受益者負担額の設定や、公的資金のバランス、必要となる新財源の活用可能性について、部活動在り方検討会において検討を開始した。※未確定

#### 地域クラブに係る経費（令和9年度事業にかかる試算）

##### ■管理費の想定

管理費	29,150千円
○事務局員人件費	… 23,100千円
○事務局設置費	… 2,420千円
○システム開発費	… 2,420千円
○管理運用費	… 1,210千円

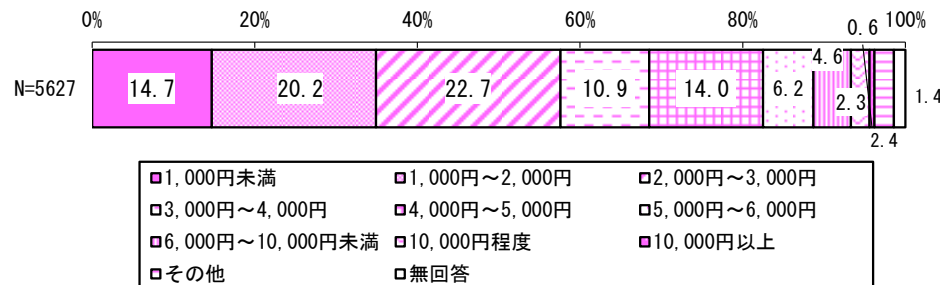
##### ■事業費（管理費以外）の想定

事業費	約120,000千円
○拠点型活動	… 100,177千円
○総合型地域スポーツクラブ	… 17,061千円
○その他の地域クラブ	… 約2,762千円

#### 受益者負担に対する保護者の認識の把握

○市内小学校5・6年生、中学校1・2年生保護者対象のアンケート調査において、受益者負担に関する認識を質問した（令和6年6月実施）。

問：1か月あたりで支出できる妥当と思われる金額についてお答えください。



#### 持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

○持続的な運営に必要な受益者負担額の試算を行った（試算内容の詳細は次ページ参照）。

○左記アンケート調査の結果を踏まえ、月額費用負担を3,000円以下とする場合に、必要経費全額を受益者負担で賄うと想定した場合、参加者人数により収支見込みの状況がどうなるかを試算した。

※必要経費額は試算時点での算出のため、その後見込み額が増加

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

##### 現時点における取組の経過（未確定）

○令和6年6月に実施した保護者アンケート調査においては、実際支出できる金額として、2,000円程度という回答が最も多く、5,000円以上支出できるという回答は1割程度であった。全体としては、約8割の保護者が支出できると思う金額を具体的に回答しており、費用負担の発生については、一定の理解が得られていると考えられる。

○参加費の想定を参加者1名あたり年間27,000円（月2,000円×12＋年3,000円）、参加人数を3,600名（中学生の約半数）と想定した場合、5千万円以上が不足することとなるため、その金額を公費補助金または寄附等の財源で賄う必要があることが想定された。

希望生徒数（令和6年6月調査による）と受益者負担額の関係（収支見込み）  
 ※必要経費額は試算時点での算出のため、その後見込み額が増加

R9年度	必要経費額：約130,400,000円				
	必要経費額÷人数 (一人あたりの金額)	① 月1,000円×12 ＋年3,000円 ＝15,000円 想定による収支	② 月1,000円×12 ＋年5,000円 ＝17,000円 想定による収支	③ 月2,000円×12 ＋年3,000円 ＝27,000円 想定による収支	④ 月2,000円×12 ＋年5,000円 ＝29,000円 想定による収支
(1) 参加人数がR7年度希望者(2,600名)並みだった場合	約130,400,000円 ÷ 2,600名＝ 50,153円	15,000円 ×2,600名 ＝39,000,000円 × -91,400,000円	17,000円 ×2,600名 ＝44,200,000円 × -86,200,000円	27,000円 ×2,600名 ＝70,200,000円 × -60,200,000円	29,000円 ×2,600名 ＝75,400,000円 × -55,000,000円
(2) 参加人数がR7年度希望者+「わからない」回答者の半分だった場合(4,600名)	約130,400,000円 ÷ 4,600名＝ 28,347円	15,000円 ×4,600名 ＝69,000,000円 × -61,400,000円	17,000円 ×4,600名 ＝78,200,000円 × -52,200,000円	27,000円 ×4,600名 ＝124,200,000円 × -6,200,000円	29,000円 ×4,600名 ＝133,400,000円 ○ +3,000,000円
(3) 参加人数がR7年度希望者+「わからない」回答者の全数だった場合(6,600名)	約130,400,000円 ÷ 6,600名＝ 19,757円	15,000円 ×6,600名 ＝99,000,000円 × -31,400,000円	17,000円 ×6,600名 ＝112,200,000円 × -18,200,000円	27,000円 ×6,600名 ＝178,200,000円 ○ +47,800,000円	29,000円 ×6,600名 ＝191,400,000円 ○ +61,000,000円

##### 今後の課題と対応方針

- 現時点における取組の経過はあくまで試算に過ぎず、より正確な試算による検討を、部活動在り方検討会を中心に進める必要がある。
- 新財源の持続可能な確保方法について、様々な関係者から情報収集するとともに、先進自治体等の事例を研究し本市で実践可能な方策を

検討する。

- 関係者ならびに地元企業等への周知広報活動を強化し、費用面での課題解決への協力を得られる環境づくりを進める。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
**キ：学校施設の活用等**  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 キ：学校施設の活用等

##### 取組事項

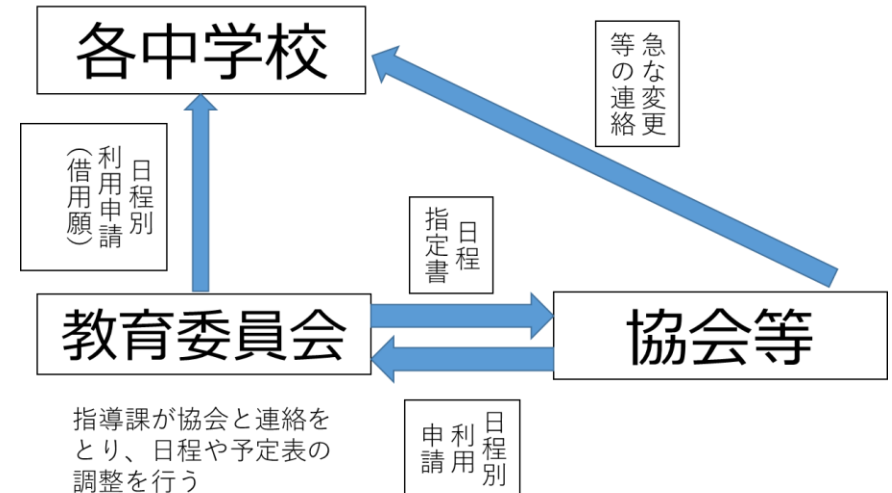
- (1) 学校の施設・設備・備品等を使用して、地域スポーツクラブ活動を実施する際の利用ルール（施設・設備・備品等の利用範囲や破損・紛失した場合の対応、施設の開閉手段・方法を含む）を策定する。
- (2) 学校以外の市スポーツ施設を使用する際の、優先的な予約や利用料減免等の優遇措置、スムーズな予約手続きについて検討する。

##### 取組の成果

- 学校施設の地域クラブ活動における利用については、既存の学校施設開放制度の中で運用するのではなく、地域クラブ活動を「学校教育活動に準ずる活動」として扱い、施設開放の枠組みの前の段階で利用日程を組むことが、部活動在り方検討会での協議で確認された。
- 校長会と連携し、各実施主体と学校の間には事務局（教育委員会）が入り日程調整を行うことを確認した。
- 各学校への説明・調整を進め、令和7年度の利用に向けて、利用開始の目途をつけることができた。

##### 今後の課題と対応方針

- 休日の活動において、施設・備品の破損等があった際、または既に破損等があったことを発見した際の対応について、学校ではなく、事務局（教育委員会）へ連絡することの周知徹底を図ることと、現場における実際の対応方法について検討する必要がある。
- 市施設の利用優遇措置や簡便な予約手続きについては実現していないため、スポーツ課や指定管理者との協議を継続する必要がある。



学校会場使用にかかる各中学校との打ち合わせ資料より

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

- 本市では、今年度実施したアンケート結果や国の動向、社会情勢を踏まえ、「四日市市部活動在り方検討会」を中心に議論を重ねる中、令和8年度の主要な大会やコンクール等の終了後は、休日の学校部活動を終了し、地域クラブ活動に展開する旨を市内全小中学校保護者に対し、今年度9月に周知した。
- 今年度は、上記の具体的な時期目標を設定し、広く周知することができたことが、ひとつの大きな成果だと考える。また、その設定に向けた現状、関係者の意識、ニーズの把握、ステークホルダーとの連絡調整を進めることができた。
- また、児童生徒・保護者等が地域クラブ活動のイメージが持てるように、チラシやQ&Aを発行したり、定期的に休日の部活動地域展開だよりを学校保護者連絡システムや本市教育委員会ホームページで発出したりして、情報発信を行った。関係者の共通認識づくりが、活動の円滑な推進と充実した活動の確保には必須であり、広報・周知については今後も強化する必要があることが改めて明らかになった。
- 今年度の活動を実施することと並行して次年度の活動の実現に向けた取組を行い、実施の目途をつけることができた。

#### ●成果の評価

- 今年度は、休日部活動の地域展開モデルの調査研究として、5つの種目の拠点型活動および4地区の総合型地域スポーツクラブと連携し、休日の地域クラブ活動を実施することができた。また、実際の活動を行いながら課題を洗い出し解決することで、時期目標達成の道筋をつけることができた。
- 活動に対する満足度については、参加生徒・保護者ともに90%が肯定的回答しており、充実した活動ができたと考えられる。同時に、多くの課題が浮き彫りとなっており、令和8年度までに、それらの課題を可能な限り解決する必要がある。
- 関係者すべてが負担なく取り組める活動づくりについては、まだまだ実現できていない。システム面、人員確保の面、予算面など多くの角度から整備を行う必要がある。
- また、関係者が不安なく取り組めるよう、情報発信を特に強化する必要がある。

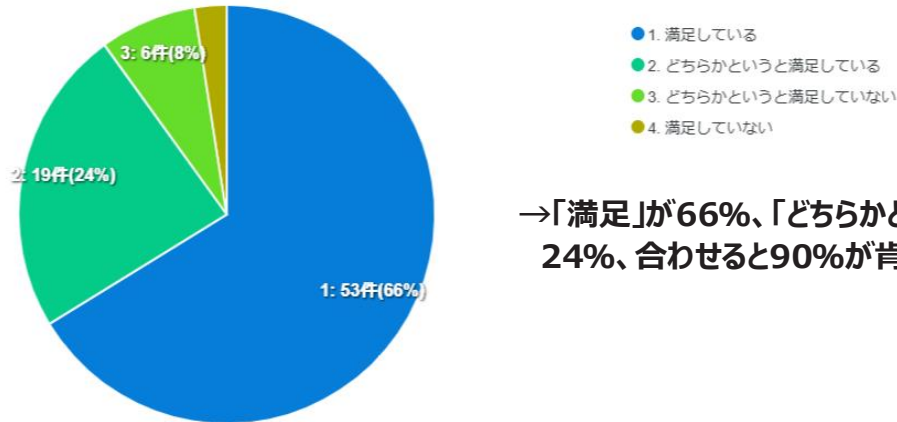
#### ●今後に向けて

- 現段階の活動の場の確保という取組から、より多様な活動の場づくり、スポーツ振興へつながる活動づくりにつなげていくのかどうかなど、この取組を取り巻く状況を大局的にとらえ、市として将来的に目指す姿を改めて協議する。
- 取組の主旨と魅力を伝え、関係者が動き出せる情報発信を行う。

### アンケート結果・参加者の声

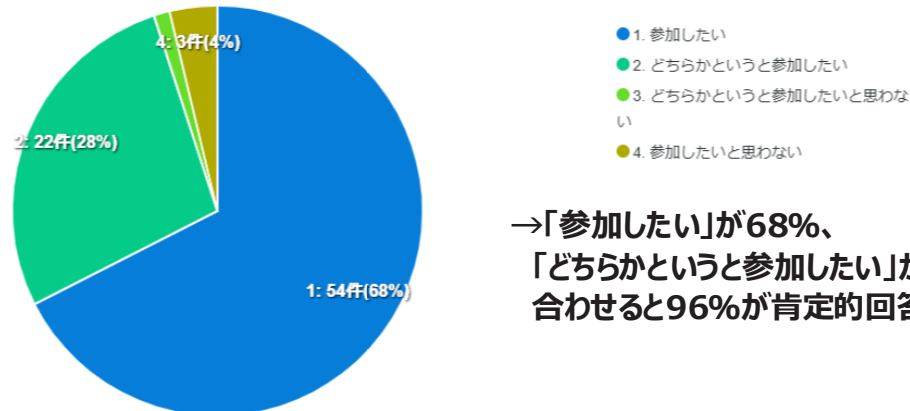
#### ●参加中学生アンケート結果

Q.今年度あなたが参加した地域クラブ活動に、「満足」していますか。



→「満足」が66%、「どちらかという満足」が24%、合わせると90%が肯定的回答

Q.来年度も、地域クラブ活動に参加したいですか。



→「参加したい」が68%、「どちらかという参加したい」が28%、合わせると96%が肯定的回答

#### ●参加者の声

##### 中学1年生

試合回数が増えると練習のモチベーションも上がるので、そのような機会がもっとあればいいなと思った。

##### 中学1年生

活動に参加していく中で大きな声が出せるようになったり、自分に自信が持てるようになりました。運動をあまりしていなかったので、体力がなく活動にもついていくことで精いっぱい周りの人の自分から進んで厳しくしたり努力する姿をみて自分も「しっかりしなければ。」と思えました。これからも活動を通して自分自身の成長につなげていきたいです。

##### 中学1年生

中学入学して初めて野球をして、どんどん好きになりました。クラブに参加して色々な技能について知ることができるからです。

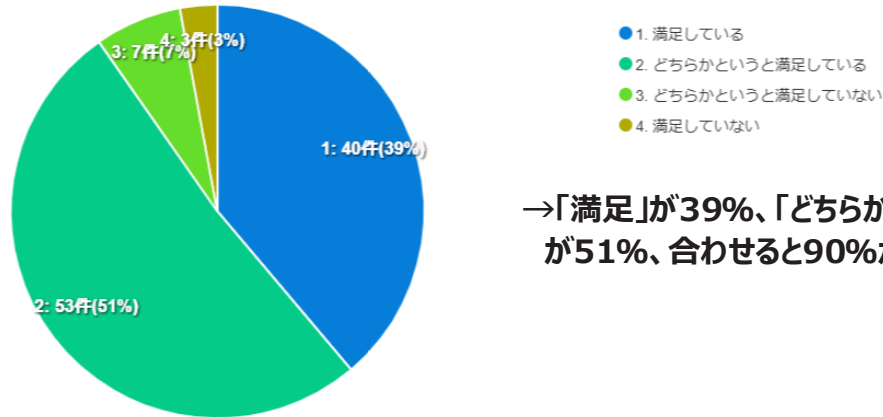
##### 中学2年生

自分の学校以外の練習が出来て、新しい知識や技術が得られるからよかった。

### アンケート結果・参加者の声

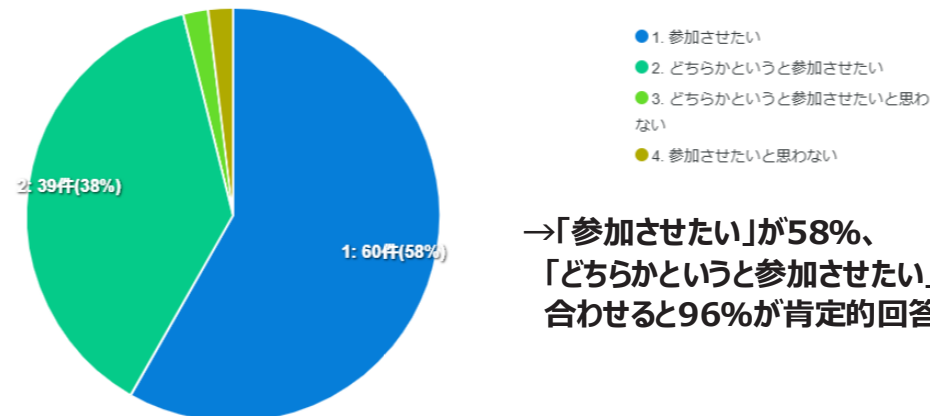
#### ●保護者アンケート結果

Q.今年度お子様が参加した地域クラブ活動に、保護者として「満足」していますか。



→「満足」が39%、「どちらかという満足」が51%、合わせると90%が肯定的回答

Q.来年度も、地域クラブ活動に参加させたいですか。



→「参加させたい」が58%、「どちらかという参加させたい」が38%、合わせると96%が肯定的回答

#### ●関係者の声

##### 中学1年生保護者

四日市ハンドボールスクールを運営していただき、ハンドボールをする場所、時間が増えたことに親子で嬉しいと思っています。

##### 中学1年生保護者

いろんな中学校から参加しているし、活動日も少なく顔を合わす日も少ないのでなかなか新しい友達をすぐに作るのは難しいのかもしれませんが、練習だけではなくコミュニケーションというか雰囲気作り、仲良くなる機会などがあると嬉しいです。

##### 中学2年生保護者

部活動以外での活動ができて、感謝しています。

##### 指導者

学校との連携(指導内容の確認)、地域道場との連携(指導体制の協力)など、まだまだ未想定の部分があるため、今後協議しながら課題改善が必要である。

##### 指導者

仕組みが保護者に浸透していないことから、わかりやすい説明が必要と感じる。

## アンケート結果・広報資料

令和6年度は、小学校5・6年生、中学校1・2年生の児童生徒、保護者、中学校教職員を対象に、意識調査・実態調査を実施した。また、市スポーツ協会・各競技協会の協力のもと、市内スポーツ団体とその指導者を対象とした団体調査を実施した。それらの結果も踏まえ、令和8年度中という地域展開の具体的な時期設定を行い、周知を行った。

### 市立中学校の今後の部活動について

令和6年9月19日  
四日市市教育委員会

～休日の学校部活動を「地域クラブ活動」へ移行します～

国の「休日の部活動(運動・文化部活動)における地域移行」という方針を受けて、本市では令和5年度から7年度を改革推進期間とし、今まで学校で担ってきた休日の部活動を地域クラブ活動へ移行する準備を行っており、令和8年度12月を目途として完全移行する見通しです。

完全移行後も、これから生きる子どもたちに、少子化の中でも将来にわたってスポーツ・文化芸術活動等に親しむことができる持続可能な環境を整備しています。地域や競技種目の様々な特性を踏まえ、以下のような「拠点型活動方式」「総合型地域スポーツクラブ」の二つの方式を柱として、休日は地域クラブ活動へ移行していきます。※平日については、今まで通り各学校で、部活動を行う予定です。

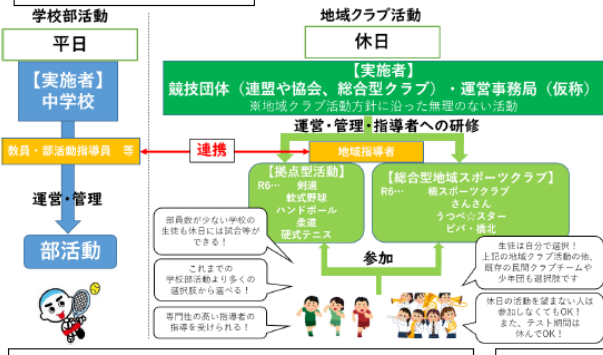
#### ① 拠点型活動方式

【各種目の協会等(例:剣道協会)が主催し、市内に1つ以上の拠点をにつくって活動する】

- 活動場所 市内スポーツ施設や文化施設、学校施設等
- 指導者 社会人指導者、退職教員、教員(兼職兼業)
- 活動費用 今年度は無料(今後については検討中です)

※令和7年度は16種目で実施予定

地域移行後のイメージ図(四日市モデル)



#### 【中体連の大会への参加について】

令和5年度から、中体連で認められた「地域スポーツ団体」が中体連の大会に参加しています。移行後の「地域クラブ活動」も同様に、中体連大会への参加が可能です。



### 四日市市部活動地域移行に関するアンケート調査

**調査概要** 部活動の地域移行を進めていくにあたってニーズや課題等を把握し、今後の活動をより良いものにするための調査。

**調査対象** 四日市内の中学生

**回答方法** Google Formsによるアンケート調査

**回答期間** 令和6年6月5日(水)～令和6年6月18日(火)

**有効回答数** 4,090件

### 中学生

**問** 今後、休日の部活動が地域の活動になった場合、あなたは参加したいと思いますか。

回答	割合
参加したい	31.0%
参加したくない	14.7%
わからない	52.3%

N=4,090

### 保護者

**問** 休日部活動が地域へ移行するにあたり、保護者様として不安に思うことはありますか。

不安に思うこと	割合
指導者が足りない	3,988
安全面への不安	3,081
費用がかかる	2,041
地域移行後の活動内容	1,365
その他	417
不安にない	110
無回答	11

### 教員

**まとめ**

- 半数を超える教員が競技(活動)経験のない部活動の指導を行っており、そのうちの7割近くの教員が技術指導に自信が持たれない状況であると考えられる。
- 休日の部活動については、指導したいと考えている教員が1割半ば程度に対し、指導したくない教員は6割弱と大多数の教員は休日の指導に消極的であるにも関わらず、休日の部活動指導を行っている教員は8割を超えている。
- 休日の部活動が地域移行した場合、兼職兼業を出して指導を希望する教員が12.9%に対し、指導を希望しない教員は61.0%と約5倍もの差となっている。
- 地域移行にあたっては、「教員以外の指導者が指導すること」「地域指導者の確保」「平日と休日の指導者が異なること」など、指導者に関する課題を感じている教員が多い。
- 割増の教員が兼職兼業にて指導に携わる意向を示しているが、働き方改革が進む中、教員以外の指導者を確保していくことが重要であると考えられる。

## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



【四日市中学生合同稽古会（剣道）】



【四日市クラブ（軟式野球）】



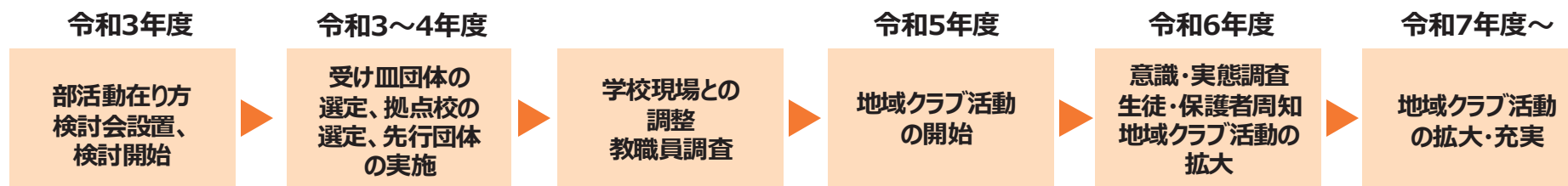
【四日市中学生ハンドボールスクール】



【四日市クラブ 大会参加の様子】

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



- 検討会構成員：  
外部有識者、中学校長会代表、中学校教頭会代表、三重県中体連三四支部長、三重県中学校吹奏楽連盟代表、総合型地域スポーツクラブ代表、教職員代表、教育委員会、シティプロモーション部
- 検討内容：  
市部活動ガイドラインの確認、総合型地域スポーツクラブとの連携、部活動指導員の配置について、本市における段階的な地域移行の進め方について 等

- 先行実施団体として、楠スポーツクラブと楠中学校の連携を令和3年に開始（令和4年は2年目）
- まずはSC側が学校現場、部活動の現場を知ることが重視し、連携を開始。その中で、教職員との意思疎通、実施方針の合意形成が課題となった。
- 実施内容：教員と連携し、指導を実施。可能な活動から、指導員が主導した練習活動を行った。また、教員と指導員、SC事務局との連携を進めるため、連絡方法やツールの整備を開始した。

- **ステークホルダー**  
総合型地域スポーツクラブ 4団体－4中学校生徒  
拠点型活動5団体（令和6年度）－市内中学生全員  
活動に参加する生徒の保護者  
連携校・競技に関係する教職員
- **経過（令和5年度）**  
令和5年度実証事業への取り組みを踏まえ、5年度内に実施団体の拡充を図った。
- **実施にあたって生じた課題**  
指導者確保の難航による開始時期の遅れ、地域クラブ指導におけるリスク管理等への不安、事務業務の多さ、予算確保の見通しの難しさ 等多数

- **ステークホルダー**  
市内全中学生・保護者  
小学生高学年児童・保護者  
スポーツ関係団体・地域指導者  
教職員
- **経過（令和6年度）**  
アンケート調査の結果を踏まえ、地域展開の時期目標を在り方検討会において検討。その後協会・競技団体、校長会等と調整し、市議会へ報告。その後、9月に保護者へ広く周知した。
- **実施にあたって生じた課題**  
準備が一定整った後の周知を行ったため、理解醸成に時間を要している→周知内容、回数、ルートの充実が大きな課題

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

### 四日市市部活動地域展開 運営・実施中期計画

現体制による取組

新たな運営協会による取組

【方向性・目指す姿】 「希望する中学生が活動できる多様な選択肢の提供」 「学校部活動の意義や役割を継承・発展させた活動」 「関わる人すべてにとって無理のない活動」

		令和6年(2024)度	令和7年(2025)度		令和8年(2026)度		令和9年(2027)度	令和10年(2028)度	令和11年(2029)度～				
		～3月	～7月	～11月	～3月	～7月 夏～秋	～3月	4月	～3月	4月	～3月		
国・県		まずは休日から学校部活動の地域連携地域展開を進める 改革推進期間				地域クラブ活動の充実 改革実行期間(前期3年間)				改革実行期間(後期3年間)			
運営者	市	(運営協会を8年度当初に立ち上げるための準備) 事務局担当: 市推進室				事務局担当: 市推進室		協会による運営を支援					
	運営協会					外部団体による運営協会の立ち上げ		運営協会による運営					
運営	運営協会設立	市 ○協会概要、業務の検討 ○補助金交付要綱検討	○業務内容、分担の確定		○補助金交付要綱確定		3年生の最後の大会等終了後に休日の学校部活動を終了	外部団体が協会を運営				資金面での自走開始(または市補助金を徐々に減額)	
	外部団体			○運営協会設立準備		○運営協会設立		○補助金交付申請					
	財源	○(市) 予算 ○(国) 実証事業委託費	○(市) 予算 ○(国) 実証事業委託費 ※参加者の会費等負担はなし(保険料は負担)		○(市) 予算 ※参加者の会費等負担はなし(保険料は負担) ○(国) 実証事業委託費 ※あれば活用		四日市クラブ運営協会(仮称)による運営を開始	○参加者からの会費徴収開始・外部財源(寄附等) ○(市) 補助金				○会費・寄附等で運営(市補助金)	
				○ふるさと納税等活用のための基金設立等(案)		○家庭支援等 ○アプリによる集金開始							
地域クラブ	拠点型活動	○R7年度参加者募集 ○5種目 ○各種目1拠点月 ○1回～	○16種目すべてで活動開始(試行) 可能な種目では月2回以上の実施 ○16種目 ○各種目最低1拠点 ○最低月1回		○16種目 ○各種目必要拠点数確保(2拠点以上) ○月1～2回(それ以上可)		の大会等終了後に休日の学校部活動を終了	○完全実施 月3～4回程度				○16種目～ ○必要拠点数確保 ○月4回程度 ○年48回程度	
	総合型地域スポーツクラブが行う各クラブ	○各総合型地域スポーツクラブ + 各中学校で連携して実施(可能なクラブは新規連携開始)				○市内全域から参加可能		多様な種目の活動を開設					
	その他団体が行う各クラブ	○総合型4クラブが主催	○総合型5クラブが主催(種目・クラブは順次拡大)		○総合型5クラブが主催(種目・クラブは順次拡大)			○スポーツ少年団や地域のスポーツクラブ・文化教室などから申請があった場合、加盟基準を満たす団体を公認クラブとして認証 → 活動開始に向けた準備					○総合型クラブ5クラブ(またはそれ以上)
その他活動	クラブチーム・教室等(従来のクラブ)	○従来の形と変化なし(生徒にとっても、従来と同じく校外活動の選択肢のひとつとなる)											
	学校部活動	○平日: あり ○休日: あり(学校部活動と地域クラブ活動の並行実施)					○平日: あり(※改革実行期間内に検討) ○休日: 地域クラブ活動+外部活動のみ						
	部活動指導員・協力員	○指導員: 全中学校を対象に配置(可能な限り複数配置)				○協力員: 小規模校に配置		○平日: 配置検討(引き続き学校部活動で指導)				○休日: 地域クラブの指導員として活動	

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 三重県 桑名市

自治体名：三重県桑名市

担当課名：教育委員会事務局 学校支援課

電話番号：0594-24-1241

# 1.自治体の基本情報

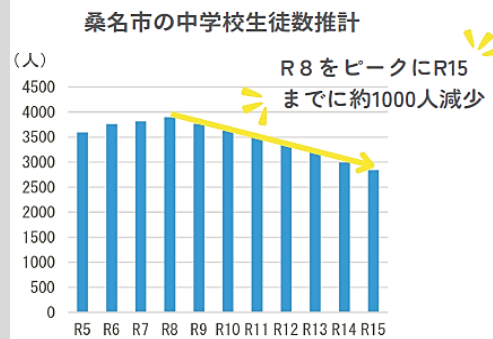
## 基本情報

面積	136.65 km <sup>2</sup>
人口	138,155 人
公立中学校数	9 校
公立中学校生徒数	3,651 人
部活動数	117 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	設置済

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

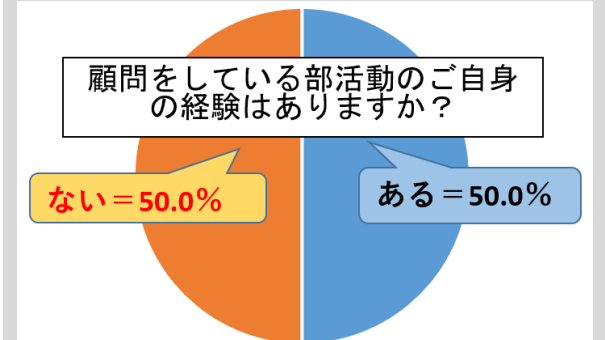
桑名市では、令和8年度中に休日部活動の地域展開を目指している。スポーツ庁の実証事業を活用し、2団体（2種目）に休日の部活動を委託した。そのほか令和6年度は、中体連専門部や吹奏楽連盟と連携し、市独自で休日部活動のモデル事業を実施した。モデル事業に参加した中学生やその保護者、顧問・外部指導者を対象としたアンケート結果には、地域展開することで指導者の専門性が向上することを期待する声や、複数校が連携することによる様々な交流を前向きに受けとっている意見があった。一方で、従来の学校部活動からの変化を不安視する声や、活動場所までの生徒の移動、保護者の金銭的な負担増への懸念もあがった。

令和6年12月に、市内の小学5・6年生とその保護者、小学校教職員および中学校教職員を対象としたアンケートを実施した。小学生の56.8%が土日の部活動を望んでおらず50.2%が週3日以内の活動を望んでいることが判明した。さらに、現顧問のうち、50%が自身の経験のない種目を担当しており、専門的な技術指導ができないことが分かった。どちらのアンケート結果でも共通して、技術指導の専門性だけでなく、ハラスメントに対する意識など指導者の人間性について注視している意見が多く、指導者の質について非常に高い関心が寄せられていることが明らかになっている。受け皿と整備と、指導者の質の担保を第一優先で取り組む必要がある。



出典：令和6年度第2回桑名市総合教育会議 資料

令和6年度部活動地域移行に関するアンケート調査より（市内対象）

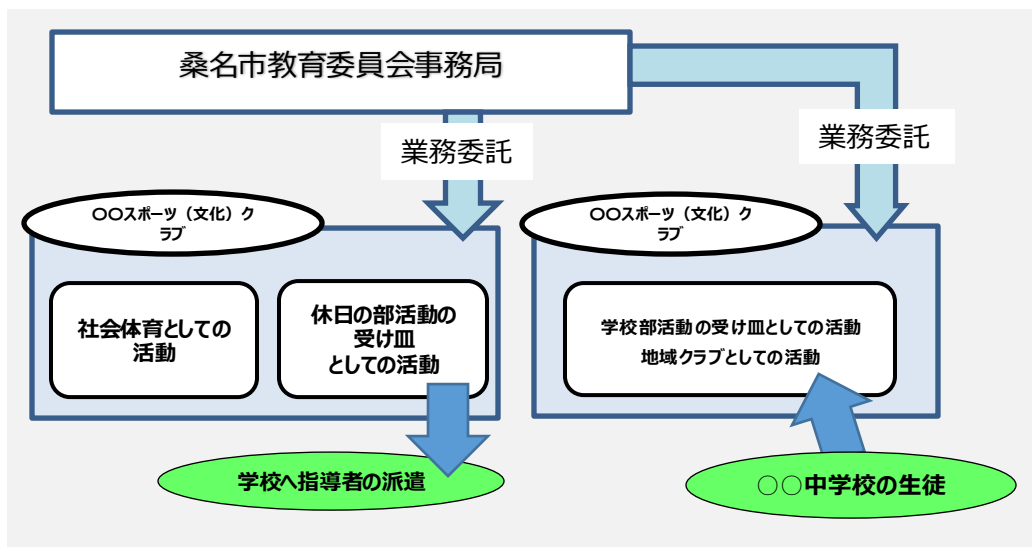


出典：令和6年度第2回桑名市総合教育会議 資料

## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会

- ・学校支援課…部活動改革の主幹、学校との調整・連携、中体連専門部および吹奏楽連盟との連携、部活動指導員の任用、市民への情報発信、委託契約全般、兼職兼業の把握管理、市民への周知、部活動在り方検討委員会事務局（3名）

##### ◎首長部局

- ・スポーツ振興課…部活動在り方検討委員会事務局（1名）
- ・生涯学習課、地域コミュニティ課、観光課からも担当者各1名が部活動在り方検討委員会に出席。

### 年間の事業スケジュール

令和6年4月	業務委託契約締結（3団体） 部活動指導員研修会実施 ACCとの包括連携協定締結
令和6年5月	県との委託契約締結 中学校長会との協議
令和6年6月	第1回部活動在り方検討委員会 部活動地域移行スタートアップ記念講演
令和6年7月	広報掲載のための準備
令和6年8月	第2回部活動在り方検討委員会 桑名市モデル事業開始（～2月）
令和6年9月	教職員対象説明会（全9校）、中学校長会との協議 中体連専門部長への説明
令和6年10月	中間検査対応
令和6年11月	第3回部活動在り方検討委員会、ロードマップ作成 中学校長会との協議、部活動ジャーナル刊行開始
令和6年12月	市内アンケート調査実施 新入生説明会資料配付
令和7年1月	大学訪問（愛知県）、総合教育会議 運動部活動指導者養成講座周知
令和7年2月	第4回部活動在り方検討委員会 運動部活動指導者養成講座実施
令和7年3月	事業完了報告・成果報告書作成 次年度業務委託団体との打合せ

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	2クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2クラブ（3部活）
全体の指導者数	10人	全体の運営スタッフ数	10人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
桑名バレーボールアカデミー (KVA)	市民団体	バレーボール	週1回程度 (休日)	土曜日 午前	1年~3年	4月~3月	中学校 体育館	5人	5人	—	中体連：部活動 その他：部活動
桑名ソフトボールアカデミー (KSA)	市民団体	ソフトボール	月2回程度 (休日)	土曜日 午前	1年~3年	4月~3月	中学校 グラウンド	5人	5人	—	中体連：部活動 その他：部活動

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

桑名バレーボールアカデミー (KVA)

- R6 5月 無料体験会実施

桑名ソフトボールアカデミー (KSA)

- R7 2月、3月 無料体験会実施

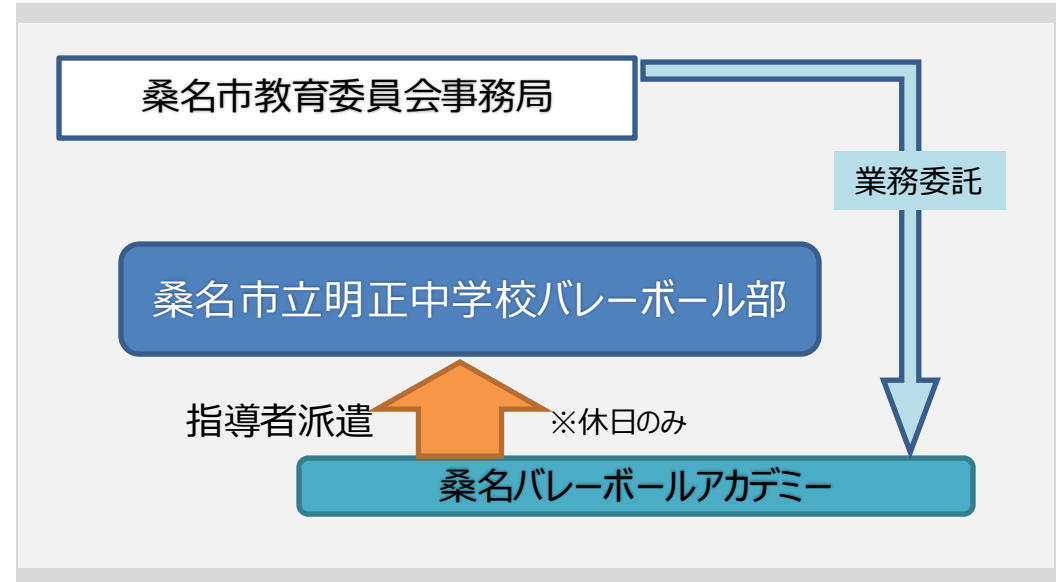
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ●桑名バレーボールアカデミー 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール
運営団体名	桑名バレーボールアカデミー
期間と日数	4月～3月 週1回程度(休日)
指導者の主な属性	中学校教員、大学生、地域指導者
活動場所	桑名市明正中学校
主な移動手段	徒歩、自転車
1人あたりの参加会費等(年額)	—
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

#### ●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



#### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 代表者 1名  
役割：事務局機能および委託以外の団体の業務を担当
- 主任指導者 1名  
役割：中学校との連絡調整、団体指導者の派遣の采配、委託の窓口、バレーボール部全体の指導
- 指導者 3名  
役割：中学生への指導

# 2. 実証内容と成果

## ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- イ：指導者の質の保障・量の確保
- ウ：関係団体・分野との連携強化
- エ：面的・広域的な取組

- オ：内容の充実
- カ：参加費用負担の支援等
- キ：学校施設の活用等
- ク：その他の取組



### 取組内容

#### ● 取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

桑名市部活動在り方検討委員会を年間4回開催。市内の実態をもとに、令和8年度中に休日の部活動を地域展開するにあたり、めざす方向性をすり合わせ、どのような体制を構築するべきか、そのために、いつ、どのようなアクションを起こしていく必要があるのか等を関係者及び有識者で協議した。中体連専門部や吹奏楽の連盟等とも連携を行い、市独自の部活動モデル事業を展開し、検証を行なった。

##### 取組の成果

- 市独自のモデル事業を展開。  
種目数12種目、36回開催。  
⇒参加生徒および保護者、顧問、外部指導者を対象にアンケート調査を実施。結果を種目ごとにまとめ、地域展開の受け皿を市内のどこに、何か所つくる必要があるかを検討。
- 部活動地域移行に係るアンケート調査を実施。  
⇒市内の小学校5・6年生児童とその保護者、中学校教職員、小学校教職員を対象とした。調査結果の解析からニーズを把握し、市としての今後の地域展開プランを作成する上での根拠資料の一つとして活用とした。
- 桑名市としての地域展開の方向性を明確化。  
⇒ロードマップ、公認地域クラブ取扱要綱、地域展開プランを作成。



出典：新入生説明会市内共通資料 桑名市における「中学校の休日部活動の地域移行」について

##### 今後の課題と対応方針

令和8年度にむけて、休日の受け皿となる地域クラブを市内に整備していくことが最大の課題となる。生徒と保護者のニーズから、当面の間は行政（学校教育担当およびスポーツ・文化担当）が地域クラブの管理・運営を担っていく必要があると考えている。地域クラブを公認化する仕組みをつくり、公認された地域クラブにかかわる諸業務（指導者研修、学校施設割り振り、集金、報酬支払、指導者募集、団員募集、クレーム対応等）を一括して対応できる体制を整えていく方針を在り方検討委員会を確認した。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

##### 取組事項

##### 指導者の質の確保

アスリートキャリアセンター（ACC）と包括連携協定を結び、地域展開に関わる指導者に対しての研修を構築する。チームマネジメントや安全管理を含め、子どもたちや保護者の方が安心して活動に参加できる環境を整える。

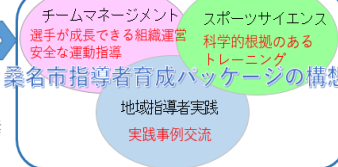
市独自の指導者育成パッケージを策定し、今後地域展開に関わる指導者に対して、指導基礎研修（必須研修）と指導力向上研修（任意研修）を整える。

##### 桑名市 指導者育成パッケージ構想

持続可能な  
体制づくりに向けて

部活動の地域移行に係る指導者の育成に関すること

- アスリートキャリアセンターと連携のもと、指導者養成のための研修をおこなう。



「チームマネジメント手法」と「正しく安全な運動指導」から、部活動の指導を行う際に必要な要素をまとめたカリキュラムを開発

休日の部活動の地域移行を目指すために、チームマネジメントや安全管理を含め、指導者の育成体制の環境を整えることで、子どもや保護者の安心感につなげる。

##### 指導者の量の確保

三重県に設置された「みえ地域クラブ人材バンク」を活用し、現在、令和7年度の部活動指導員を募集している。令和7年度は部活動指導員として、学校と連携を図り、令和8年度の地域展開時には、部活動指導員から立場を変え、地域の指導者として地域クラブで活動できるよう準備を進めている。また、市独自に、隣接する大学や公共施設へポスター掲示を依頼し、指導者の確保に努めている。

##### 取組の成果

アスリートキャリアセンターから講師を招き、運動部活動指導者養成講座を開催した。オンラインと対面での実施で、部活動指導員の方や、地域展開時に指導に関わりたい教員など12名が参加し、座学やディスカッションの他、実際に身体を動かしての講座となった。

実際に参加された方からは「静的ストレッチを(練習)はじめにやるのがNGなのは知りませんでした」「これからの指導者に求められるものが今までと違うことがわかりました」という声も聞かれ、学びのある講座となった。

##### 実際に行われた講座の様子



##### 今後の課題と対応方針

生徒や保護者アンケートから「指導者の人間性」「厳しい指導」に対する不安の声があがっている。その声に対応するため、指導基礎研修（必須研修）と指導力向上研修（任意研修）の内容を精査する必要がある。

また、指導者の量の確保の面で、部活動に関するホームページの立ち上げや、SNS等を利用した広報活動を展開し、指導者の確保に努める。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
**工：面的・広域的な取組**

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 工：面的・広域的な取組

#### 取組事項

#### 桑名市モデル事業

どのようなかたちであれば、継続可能な活動になるのかを検討するため、市の独自事業として、地区中体連と連携し、各種目の実情に合わせて桑名市モデル事業を行った。

#### 検証内容

- ・活動場所（どの学校、地域、施設が適当か）
  - ・受け皿の数（何人規模の地域クラブがいくつ必要か）
  - ・指導者の数（何人いれば活動が行えるか）
  - ・活動費用（受益者負担になったときの負担はどうか）等
- 事業後に参加者、保護者、指導員、顧問にアンケートを取り、アセスメントを行った。

モデル事業例①：施設借用と地域指導者派遣パターン



○学校外の施設を借用  
 ○複数校が集まって実施  
 ○引率は教員  
 ○技術指導は地域指導者

☆専門的な指導を受けることができる  
 ☆人数が増え、多様な練習を行うことができる  
 ☆参加する教員の数を減らすことができる

モデル事業例②：学校施設利用と合同練習パターン

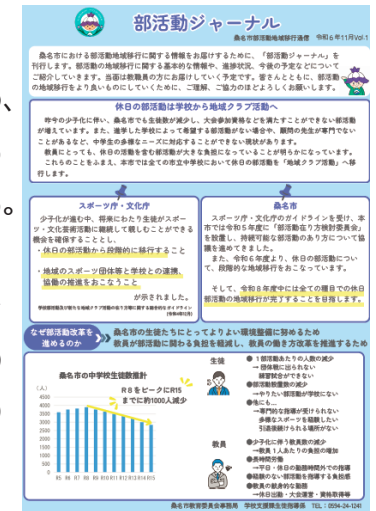


○学校の施設を利用  
 ○複数校が集まって実施  
 ○引率は教員  
 ○技術指導も教員

☆人数が増え、多様な練習を行うことができる  
 ☆参加する教員の数を減らすことができる

#### 部活動ジャーナル

教職員へ地域展開の情報を届けるため、地域展開に関する通信を発行している。今後は部活動に関するホームページを立ち上げ、市民への周知理解促進につなげる。



#### 取組の成果

市内全校が参加し、休日に部活動が行われているすべての種目でモデル事業が実施された。アセスメントを受け、年度内には、市域展開時の活動場所、受け皿の数が仮決定される。

通信は校務支援システムでの展開により、市内中学校だけでなく、小学校への周知も行うことができた。

#### 桑名市モデル事業実施風景



#### 今後の課題と対応方針

仮決定した活動場所や受け皿の数をもとに、地域クラブの立ち上げや認定を行う。また、施設の調整を行い、備品の貸出や利用条件の整備を行っていく。

学校施設を利用する文化活動へ対応するため、施設改修を進める必要がある。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実

##### 調査の結果より

令和6年12月に市内の小学5・6年生を対象としたアンケート調査では、「中学校に入学したら、部活動に入りたいか」という問いに対し、53.8%が「入りたい」と回答し、「希望する部があれば」と回答した30.8%と合算すると、84.6%の児童が何らかの部活動に入ることを検討しており、令和6年5月時点の市内中学生の部活動加入率90.9%に迫る割合となった。また、「1週間に何日くらいの活動がちょうどよいか」という問いに対し、56.8%の児童が、平日のみの活動を選択した。さらに、週3日以内の活動を選択した児童は50.2%にのぼり、現行のガイドラインのなかで最大の活動日数となる平日4日土日1日を選択した児童は16.7%にとどまった。

小学生の保護者に対する調査からは、地域移行に係る不安として、活動場所までの送迎に対する不安（64.6%）、地域の指導者の人間性（54.4%）が上位を占めた。

##### 今後の課題と対応方針

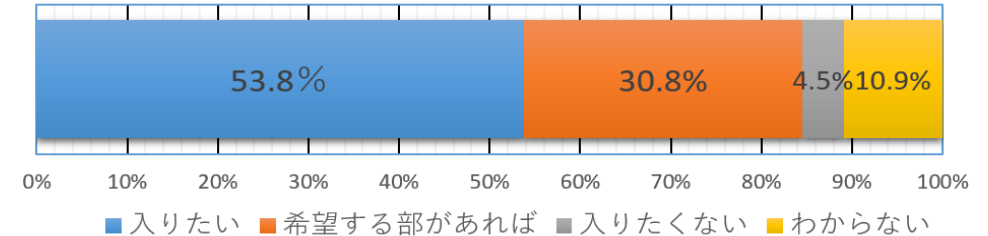
保護者の選択した懸念事項だけでなく、児童の記述式の回答からも、教員ではない地域の指導者に対する漠然とした不安があることが散見されたことから、指導者の人間性を含めた質の担保が不可欠であることを改めて認識することとなった。対応策としては、現場での指導にあたる方全員を対象に、市（管理運営部局）が実施する研修を受講してもらい、中学生の指導に対する素養を身につけてもらうことを義務化することを検討していく。

また、地域展開に伴い、休日の活動場所が所属校ではなくなることで、保護者による送迎等、受益者の負担が増加することが予想されるため、生徒の移動手段について、経済性・安全性も含めてさらに研究をすすめる必要がある。

#### 市内の児童（5・6年生）の調査結果

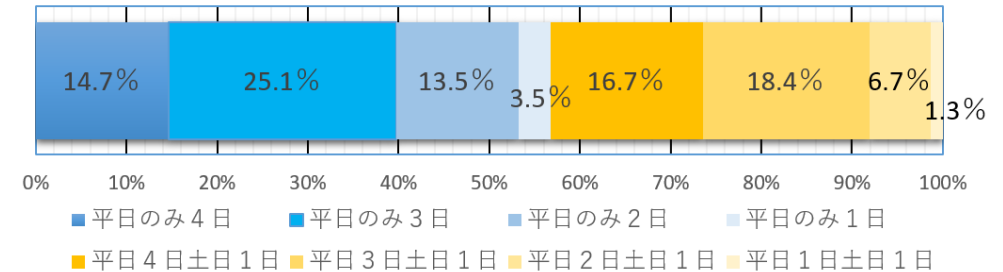
##### 中学校に入学したら、部活動に入りたいですか

N=2,151



##### 1週間に何日くらいの活動がちょうどよいですか

N=2,151



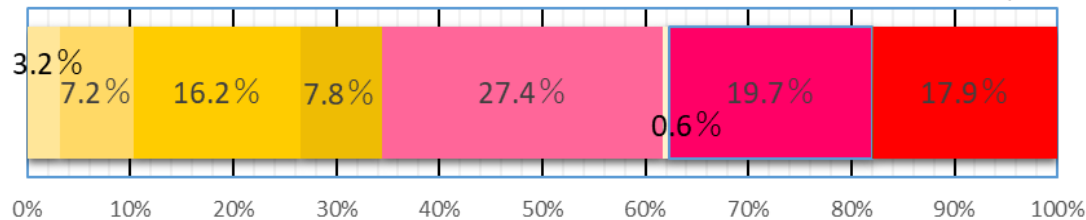
## 2.実証内容と成果②

### アンケート結果・保護者の声

#### ●市内の小学5・6年生保護者アンケート結果

1ヶ月あたり支出できる妥当と思われる金額

N=1,206



■ 6,001～10,000円 ■ 5,001～6,000円 ■ 4,001～5,000円 ■ 3,001～4,000円

■ 2,001～3,000円 ■ 10,001円以上 ■ 1,001～2,000円 ■ ～1,000円

⇒**62%が月額負担3,000円まで支出できると回答**

⇒5,000円以上と回答した保護者の割合は10.9%

地域展開にあたり、保護者として**期待すること** **TOP 3**

- No.1 (47.3%) 専門的な指導を受ける機会が増えること**
- No.2 (44.2%) 学校・教室とは別のつながりができること**
- No.3 (25.9%) 競技力・技術が向上すること**

地域展開にあたり、保護者として**不安に思うこと** **TOP 3**

- No.1 (64.6%) 送迎等の時間的な負担**
- No.2 (54.4%) 指導者の人間性**
- No.3 (33.0%) 希望する種目の活動が市内にあるかどうか**

#### ●保護者の声

中学生の休日部活動の地域移行に関わるご意見等がありましたら、お書きください。

地域の専門家の方を見張る方はいるのでしょうか。子どもたちに万が一の事があった時、またいじめや暴力行為が認められたとき、どのように対処されるのでしょうか。

送迎しなければならなくなるのが一番心配である。スクールバスのような循環バスも検討してほしい。

学業とのバランスを考慮して欲しいです。本気でやりたい子はクラブチームに別で所属しているケースもあり、先生方の負担が減り、生徒自身も自分で選択ができるようになれば良いと感じます。

休日の部活動の地域移行は、学校の先生方の働き方改革という点で必要なことだと思います。が、そのしわ寄せが子どもたちにいくことはないようにしてほしいです。適切な指導ができる指導者の確保や、全指導者が受けるべき研修（救命講習などを含めたもの）を設定するなど、子どもたちが安全に部活動を行える環境を確保してください。

## 2.実証内容と成果③

### アンケート結果・広報資料

部活動指導員を広く募集するためのポスターを作成し、市内の公共施設や、近隣の大学等へ掲示を依頼。  
すぐに面接・採用に進まずとも、人材バンクへの登録へご案内。



**あなたの情熱と経験を桑名の中学生に！**

## 桑名市 部活動指導員募集中！

**主な活動内容**

- 部活動の技術指導
- 学校外での活動(大会・練習試合)の引率

**勤務条件等**

- 場所：桑名市立中学校
- 時間：年間210時間  
1回2～3時間(基本)
- 報酬：1時間1641円  
+交通費・旅費  
(令和6年度実績)

**採用の流れ**

書類審査、面接選考を経て、部活動指導員として登録されます。登録者は学校からの配属希望条件が合致した場合、部活動指導員として採用された後、当該の学校にて勤務していただきます。

**興味があるあなた**

これまで培ってきたあなたの技術や経験を活かし、桑名市の中学生と一緒に活動してみませんか。

平成29年3月、文部科学省より「学校の教育活動に基づき、生徒の自主的・自発的な参加により行われるスポーツ、文化等に関する教育活動である部活動において、校長の監督を受け、技術的な指導に従事する」と規定された職種のことです。

お問い合わせ  
桑名市教育委員会事務局 学校支援課 生徒指導係  
0594-24-1241

HP  
QRコード

【部活動指導員を募集するチラシ：スポーツver.】



**あなたの情熱と経験を桑名の中学生に！**

## 桑名市 部活動指導員募集中！

**主な活動内容**

- 部活動の技術指導
- 学校外での活動(大会・練習試合)の引率

**勤務条件等**

- 場所：桑名市立中学校
- 時間：年間210時間  
1回2～3時間(基本)
- 報酬：1時間1641円  
+交通費・旅費  
(令和6年度実績)

**採用の流れ**

書類審査、面接選考を経て、部活動指導員として登録されます。登録者は学校からの配属希望条件が合致した場合、部活動指導員として採用された後、当該の学校にて勤務していただきます。

**興味があるあなた**

これまで培ってきたあなたの技術や経験を活かし、桑名市の中学生と一緒に活動してみませんか。

平成29年3月、文部科学省より「学校の教育活動に基づき、生徒の自主的・自発的な参加により行われるスポーツ、文化等に関する教育活動である部活動において、校長の監督を受け、技術的な指導に従事する」と規定された職種のことです。

お問い合わせ  
桑名市教育委員会事務局 学校支援課 生徒指導係  
0594-24-1241

HP  
QRコード

【部活動指導員を募集するチラシ：文化ver.】

## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



【桑名市モデル事業：ソフトテニスの様子】



【桑名市モデル事業：バレーボールの様子】



【桑名市モデル事業：水泳競技の様子】



【桑名市モデル事業：軟式野球】

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

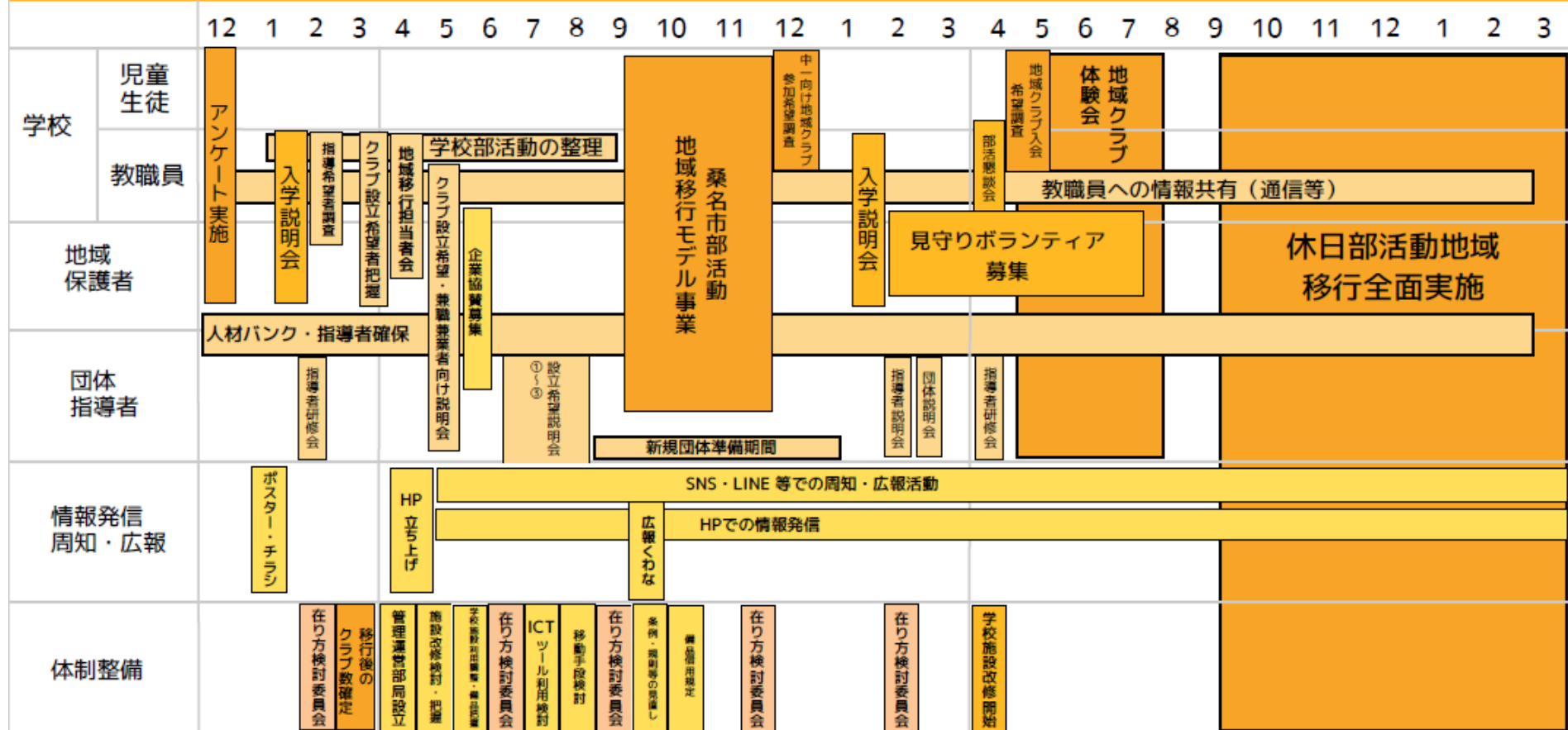
### 桑名市地域移行ロードマップ



令和6年

令和7年

令和8年



令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 三重県 鈴鹿市

自治体名： 三重県鈴鹿市

担当課名： 鈴鹿市教育委員会事務局 教育指導課

電話番号： 059-382-9028

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

面積	194.46 km <sup>2</sup>
人口	194,757 人
公立中学校数	10 校
公立中学校生徒数	4,998 人
部活動数	145 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	「鈴鹿市立中学における部活動の地域移行に関する協議会」 令和5年6月設置
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

・全国の状況と同様に、本市においても少子化は進んでおり、15年後、生徒数は現在の63%になることが見込まれている。

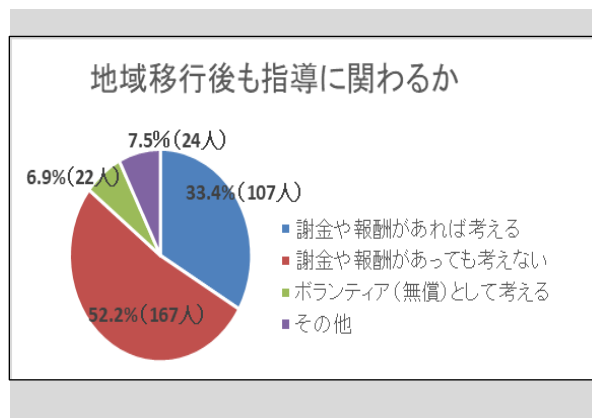
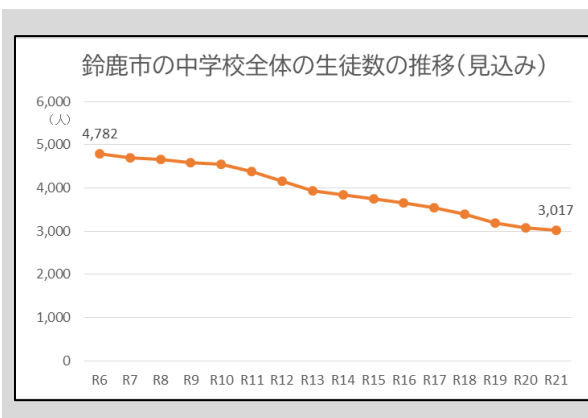
また、中学校教員を対象にしたアンケートでは、52.5%の教員が「地域移行後は報酬があっても休日の活動には関わらない」と回答しており、今後、学校部活動の体制を維持していくことはますます困難となってくることが予想される。

・令和5年6月、「休日の部活動地域移行に関する協議会」を設置した。これまで5回開催し、多方面から様々な意見を聴取し、取組に反映させている。

・令和6年10月、市内小中学校の児童生徒、保護者、教員に、令和8年10月以降、休日の学校部活動を実施しないこととなる旨を周知した。

・本市は、地域移行後の受け皿となる総合型地域スポーツクラブ等が十分でないため、既存のクラブチームやスポーツ・文化芸術団体等と連携、協議しながら、休日の子どもの居場所づくりをすすめている。

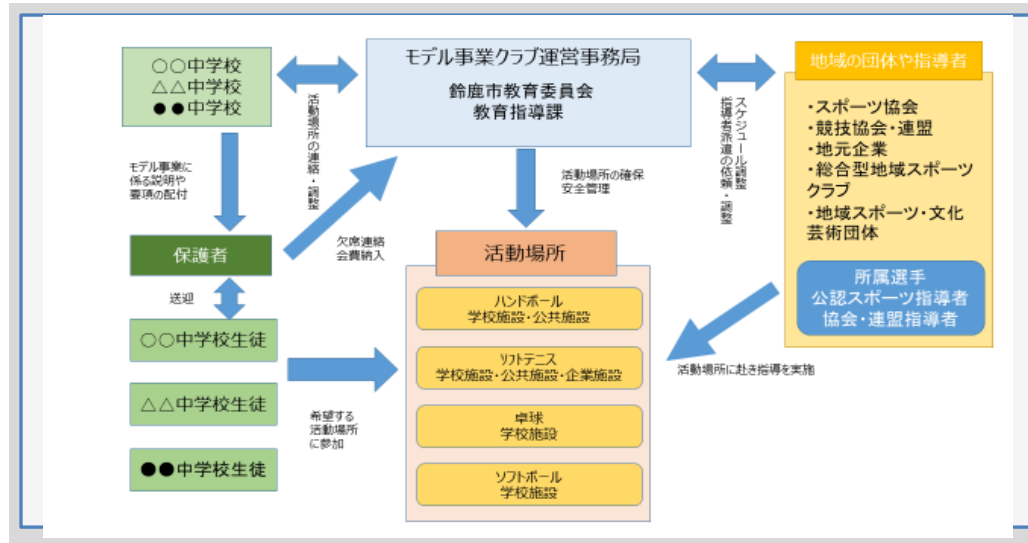
・令和6年度4種目で実施するとともに、令和7年度14種目でモデル事業を実施する予定である。その際、種目ごとに最適な形態を検証し、令和8年10月以降の体制を整備する。



## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会

- ・学校との連携（小中学校長会、各競技専門部、学校運営協議会、等）
- ・中学校体育連盟との連携
- ・各競技団体、スポーツ協会との連携

##### ◎市長部局

- ・地域スポーツ団体との連携
- ・スポーツ協会との連携
- ・文化・芸術団体との連携

### 年間の事業スケジュール

令和6年4月	中学校長への周知活動
令和6年6月	中学校教員への周知活動
令和6年9月	モデル事業準備
令和6年10月	モデル事業（2月まで月1回）
令和6年10月	児童生徒、保護者、教員への周知 休日の部活動終了について
令和6年12月	児童生徒、保護者、教員への周知 休日の部活動終了後の子どもの 居場所について
令和6年12月	中学校部活動等担当者説明会 オンライン質問会
令和7年2月	令和7年度モデル事業実施要領配 付、委託団体募集開始
令和7年3月	令和7年度モデル事業参加団体代 表者、指導者説明会・研修会

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	10 校	実施した地域クラブ総数	4 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		4 クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	73 人	全体の運営スタッフ数	8 人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
モデル事業クラブ	鈴鹿市教育委員会	ハンドボール (新)	月1回	9時～12時	1年：3人 2年：11人	10月～2月	学校施設 公共施設	23人	4人（内、兼務2人）	年会費 1000円	大会参加なし
モデル事業クラブ	鈴鹿市教育委員会	リフトテニス (新)	月1回	9時～12時	1年：14人 2年：50人	10月～2月	学校施設 公共施設 企業	30人	4人（内、兼務2人）	年会費 1000円	大会参加なし
モデル事業クラブ	鈴鹿市教育委員会	卓球（新）	月1回	9時～12時	1年：4人 2年：10人	10月～2月	学校施設	6人	3人（内、兼務2人）	年会費 1000円	大会参加なし
モデル事業クラブ	鈴鹿市教育委員会	ソフトボール (新)	月1回	9時～12時	1年：2人 2年：10人	10月～2月	学校施設	14人	3人（内、兼務2人）	年会費 1000円	大会参加なし

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

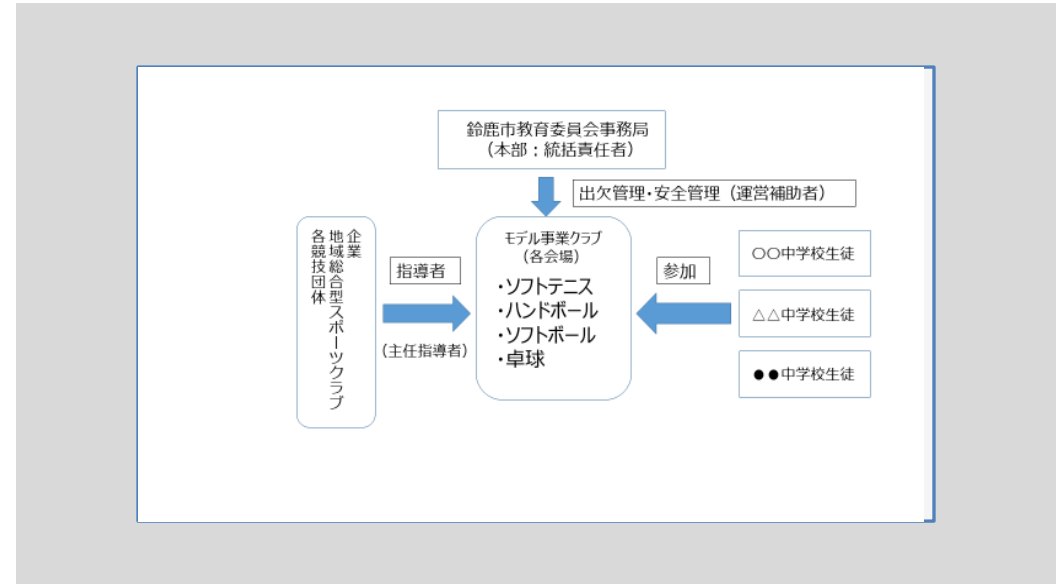
- 特になし

## 主な取組例

### ●モデル事業クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ハンドボール、ソフトテニス、卓球 ソフトボール
運営団体名	鈴鹿市教育委員会
期間と日数	4種目：10月～2月 月1回
指導者の主な属性	所属団体の選手、公認スポーツ指導者
活動場所	学校施設、公共施設、企業施設
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	4種目：1,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者  
役割：モデル事業クラブの活動全体を統括する。
- 主任指導者 4名  
役割：活動計画を立案し、全指導者に周知する。当日の活動を指揮する。
- 運営補助者 4名  
役割：各会場で活動の安全管理を行う。本部と連携して出欠管理を行う。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

1. スポーツ競技協会・文化振興財団との連携
2. モデル事業の実施（ソフトテニス、ハンドボール、卓球、ソフトボール）
3. 「鈴鹿市立中学校における部活動の地域移行に関する協議会」の開催と関係4課によるワーキンググループの設置

##### 取組の成果

- ・市内全中学校で、休日に活動する14種目（運動12、文化2）の関係団体と、地域での活動を実施する主体や運営の方法について協議を重ね、連携強化を図ることができた。
- ・中学生の指導を希望する指導者の中には、運営事務に不慣れな指導者も多く、指導者確保の課題より運営団体確保の課題解決が困難である。
- ・協議会、ワーキンググループとも2回開催した。協議会では多方面の方々から地域移行後の子どもの居場所づくりについて、様々な御意見をいただいた。また、ワーキンググループでは、現状の共有と役割の分担について協議した。

##### コーディネーターの具体的な動きの実績

コーディネーターは配置していないが、地域移行担当部署の担当者及び推進員が、鈴鹿市スポーツ協会登録の各協会の代表と事務局担当者との協議を通して、地域移行に向けた指導者の確保や実態に即した移行後の形態について、調整を図った。

##### 今後の課題と対応方針

- ・今年度4種目で実施したモデル事業を次年度は、14種目に拡大したい。そのために、関係団体との協議を継続し、持続可能な運営ができるよう支援・助言していく。
- ・関係部局が連携し、中学生の受入れ可能団体を発掘する。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実①

##### 取組事項

◆モデル事業（ソフトテニス、ハンドボール、卓球、ソフトボール）の実施

活動の詳細			
参加人数	104 人	指導者数	73 人
属性	競技連盟指導者、実業団選手、地域クラブ選手、地域指導者		
具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会が運営団体となり、各競技団体と指導者、活動場所、活動形態等について協議し、10月から2月までに月1回の活動を実施した。</li> <li>・学校を通じて、生徒、保護者に開催案内を配付し、参加生徒を募集した。</li> <li>・各競技団体には、次年度以降、自立運営ができるよう支援、助言を行った。</li> </ul>		
参加生徒の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者の方が的確な指導をしていただき、自分自身の成長を感じることが出来た。</li> <li>・学校の先生に教えてもらう時より、色々な練習方法ができた。</li> <li>・プロの人に教えてもらうと上達するのが早かった。</li> <li>・他校の生徒と練習できる良い機会になった。刺激になった。</li> </ul>		
指導者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選手も学ぶ場ができたし、中学生の取組む姿勢も素晴らしかったです。将来の夢を確立する子もいてよい機会になりました。</li> <li>・子どもたちの成長を間近で見られ、貴重な経験になりました。実施頻度が増えていくと指導者の確保が難しいと感じました。</li> <li>・本格的に地域に移行となってくると、さらに地域との連携が取れると良いと思いました。</li> </ul>		
運営経費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者謝金：1,600円/1時間</li> <li>・指導者保険料：1,850円/1人</li> <li>・活動費：200円/1人（参加者負担）</li> <li>・保険料：800円/1人（参加者負担）</li> </ul>		

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 オ：内容の充実②

#### 取組の成果

- ・令和8年10月以降、部活動が地域移行されることとなる、現6年生のスポーツ・文化活動への参加状況や移行後の地域での活動への参加意識について客観的に把握した。
- ・教員の意識調査により、地域移行後も指導を希望する教員の割合や地域移行に関する理解状況を把握することができた。
- ・児童生徒アンケート、教員アンケートの結果を地域移行に関する協議会で示し、地域移行後の子どもの居場所づくりについて、整備すべき事項、留意して取り組む事項について広く意見を聴取した。

児童生徒アンケート調査結果概要

- 調査期間**  
令和7年1月16日(木)から1月28日(火)までの9日間  
(ただし、週休日を除く。)
- 調査回答方法**  
Google フォームによる回答
- 調査内容**

**【小学校】**

  - ・放課後や休日の学校外でのスポーツ(運動)活動や文化活動の参加状況
  - ・現在の活動内容
  - ・中学校入学後の学校部活動への入部意思及び入部を希望する活動
  - ・地域移行後の活動への参加意思及び希望する活動内容

**【中学校】**

  - ・学校部活動の入部状況及び所属する部活動
  - ・部活動に所属する目的
  - ・地域移行後の活動への参加意思及び希望する活動内容
- 調査対象者数及び回答状況**

	対象者	対象者数	回答数	回答率
①	小学5年	1671	2926	87.9%
②	小学6年	1656		
③	中学1年	1660	2680	81.1%
④	中学2年	1644		
		6631	5606	84.5%

- 集計方法**
  - ・対象者①から④までの調査全項目の回答を単純集計
  - ・回答率は、全て小数点第2位を四捨五入

(小学校)休日の学校部活動地域移行に関する児童アンケート

あなたは今、放課後や休日に、学校外でどのような活動をしていますか

現在の活動状況	5年		6年		小計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
スポーツ(運動)活動	652	43.7	589	41.0	1241	42.4
文化活動	119	8.0	127	8.9	246	8.4
スポーツ(運動)活動と文化活動	165	11.1	127	8.9	292	10.0
活動はしていない	555	37.2	592	41.3	1147	39.2
小計	1491		1435		2926	

中学校に入学したら、部活動に入りたいと思いますか

部活動入部意思	5年		6年		小計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
運動部に入りたい	642	43.1	705	49.1	1347	46.0
文化部に入りたい	177	11.9	201	14.0	378	12.9
学校外で活動している	79	5.3	91	6.3	170	5.8
部活動には入らない	40	2.7	37	2.6	77	2.6
決まっていない	553	37.1	401	27.9	954	32.6
小計	1491		1435		2926	

地域移行後のスポーツ(運動活動)や文化活動に参加したいですか

移行後の活動意思	5年		6年		小計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
自宅付近の活動ならば参加	407	27.3	348	24.3	755	25.8
学校付近の活動ならば参加	186	12.5	191	13.3	377	12.9
自分のやりたい活動があれば参加	473	31.7	420	29.3	893	30.5
参加しない	424	28.4	476	33.2	900	30.8
無回答	1	0.1	0	0.0	1	0.0
小計	1491		1435		2926	

移行後にどのような活動に参加したいですか

移行後の活動内容	5年		6年		小計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
学校部活動と同じ活動	484	32.5	461	32.1	945	32.3
学校部活動と異なる活動	356	23.9	341	23.8	697	23.8
地域行事やボランティア	197	13.2	129	9.0	326	11.1
無回答、その他	454	30.4	504	35.1	958	32.7
小計	1491		1435		2926	

#### 今後の課題と対応方針

・総合型地域スポーツクラブが十分ではない本市において、休日の地域での活動を統括する運営団体を設立することは困難である。そのため、地域移行後は、活動の実施主体が運営も担っていく体制を整備していく必要

がある。令和6年度、7年度のモデル事業を通して、各スポーツ・文化活動の実施団体が、事務局運営も担えるよう、支援、助言を行っていく。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 オ：内容の充実②

あなたは学校の部活動に所属していますか						
現在の活動状況	1年		2年		小計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
スポーツ(運動)部	922	96.2	895	92.9	1727	94.4
文化部	324	23.3	395	23.7	629	23.9
入部していない	148	10.8	179	13.8	324	12.1
小計	1262		1269		2499	

あなたが部活動に所属している目的は何ですか(複数回答あり)						
回答目的	1年		2年		小計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
自分のやりたい活動					1707	
大会やコンクールで成績を収めたい					695	
チームワークや協調性を養う					483	
体力、技術向上					647	
楽しく活動					1500	
選手や将来の夢					473	
小計					5509	

地域移行後のスポーツ(運動活動)や文化活動に参加したいですか						
移行後の活動意思	1年		2年		小計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
自宅付近の活動ならば参加	295	14.8	294	18.8	419	18.3
学校付近の活動ならば参加	319	22.9	287	20.7	898	21.9
自分のやりたい活動があれば参加	222	23.9	218	24.7	651	24.3
参加しない	524	26.4	489	26.7	1023	26.5
小計	1262		1269		2499	

移行後にどのような活動に参加したいですか						
移行後の活動内容	1年		2年		小計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
学校部活動と同じ活動	895	26.3	419	32.9	924	34.9
学校部活動と異なる活動	284	19.0	282	21.9	848	20.4
地域行事やボランティア	76	5.5	65	5.0	141	5.3
無回答、その他	847	26.3	522	40.5	1069	26.9

教職員アンケート調査結果概要

- 調査期間  
令和7年1月16日(木)から1月28日(火)までの9日間  
(ただし、連休日を除く。)
  - 調査回答方法  
Google フォームによる回答
  - 調査内容  
・現在担当している部活動  
・地域移行後の活動への参加意思  
・指導及び運営の負担(1月当たりの回数)  
・地域移行後の活動への関わり方(立上げ、既存活動、実施中 等)
  - 調査対象者数及び回答状況  
・校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭(再任用フルタイム勤務者含む)  
再任用短時間勤務者の内、部活動担当者、臨時的任用講師
- | 対象者数 | 回答数 | 回答率   |
|------|-----|-------|
| 339  | 324 | 95.6% |

- 集計結果  
休日の学校部活動が地域移行された後の活動に関わろうと考えますか。
- | 回答内容             | 回答数 | 回答率   |
|------------------|-----|-------|
| 謝金や報酬があっても考えない   | 186 | 57.4% |
| 謝金や報酬があれば考える     | 108 | 33.3% |
| ボランティア(無償)として考える | 16  | 5.0%  |
| その他              | 14  | 4.3%  |
| 小計               | 324 | —     |

前同(令和6年7月実施)比

回答内容	1月	7月	比
謝金や報酬があっても考えない	67.4%	62.2%	+ 5.2%
謝金や報酬があれば考える	33.3%	33.4%	▲ 0.1%
ボランティア(無償)として考える	5.0%	6.9%	▲ 1.9%
その他	4.3%	7.0%	▲ 2.2%

## 2.実証内容と成果①

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

- ・本市においては、令和8年10月以降、休日の部活動は実施しないこととする旨を市内全小中学校の児童、生徒、保護者、教員に周知し、今後は、休日の活動として「子どもの居場所づくり」に取り組む方向性を示した。
- ・教育委員会が運営団体となり、ソフトテニス、ハンドボール、卓球、ソフトボールの4種目においてモデル事業を実施した。モデル事業の実施に当たっては、競技団体や地元企業、地域のスポーツチーム等と協議を重ねる中で、連携強化を図ることができた。

#### ●成果の評価

- ・モデル事業への生徒の参加率は、各種目、各回において高く、取組姿勢も意欲的であった。
- ・次スライドに示す通り、参加者は終了後のアンケートにおいて、「技能の向上」「他校生との交流」「活動の楽しさ」について肯定的に回答しており、今回の活動を「満足」「おおむね満足」とした生徒が多数であった。

種目 (登録者数)	卓球(14)				ハンドボール(14)				ソフトボール(12)				ソフトテニス(64)			
	回数/会場等	日	会場	参加数	参加率	回数/会場等	日	会場	参加数	参加率	回数/会場等	日	会場	参加数	参加率	
第1回	10/19	A中学校	12	85.7	10/19	C中学校	12	85.7	10/20	B中学校	9	75.0	10/28	公共施設テニスコート	60	93.8
第2回	11/30	A中学校	13	92.9	11/9	B中学校	12	85.7	11/9	B中学校	11	91.7	11/9	公共施設テニスコート	57	89.1
第3回	12/21	A中学校	14	100.0	12/7	D中学校	14	100.0	12/21	B中学校	10	83.3	12/7	初中級 高等教育機関 上級 A中学校	60	93.8
第4回	1/11	A中学校	14	100.0	2/1	地元企業屋内練習場	14	100.0	1/11	B中学校	10	83.3	1/12	初中級 高等教育機関 上級 地元企業	56	87.5
第5回	2/8	A中学校 ※積雪により中止	---	---	2/8	B中学校 ※積雪により中止	---	---	2/8	B中学校 ※積雪により中止	---	---	---	---	---	
参加者数 参加率			53	84.8			52	82.6			40	83.3			233	81.0



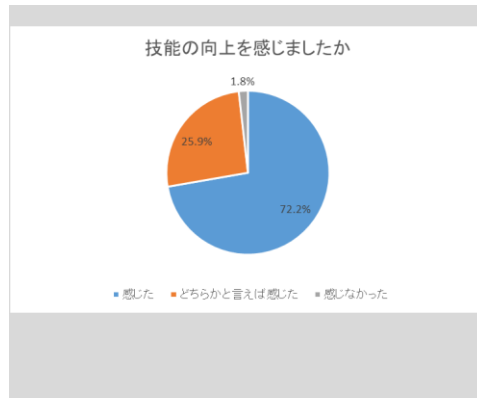
#### ●今後に向けて

- ・今後は、令和8年度に向けて中学生が活動可能な団体の一つでも多く確保していくこと、学校施設や備品等の活用について整備していくこと等が課題となってくる。スポーツ・文化芸術団体や学校、地元企業等とさらに連携を密にし、想定される課題を解決していく。

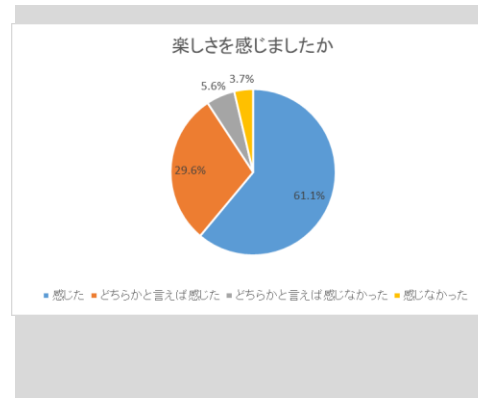
## アンケート結果・参加者の声

### ● アンケート結果（モデル事業参加生徒54名/104名：回収率51.9%）

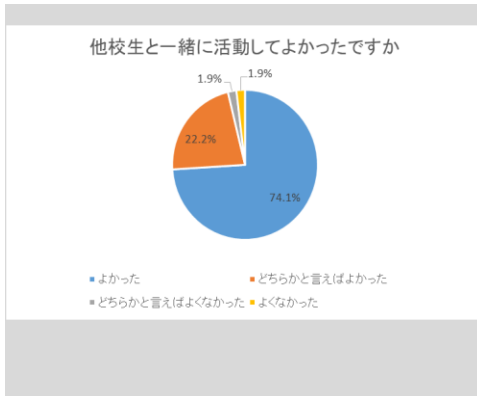
Q. 今回のモデル事業の活動を通して、技能の上達につながると感じましたか？



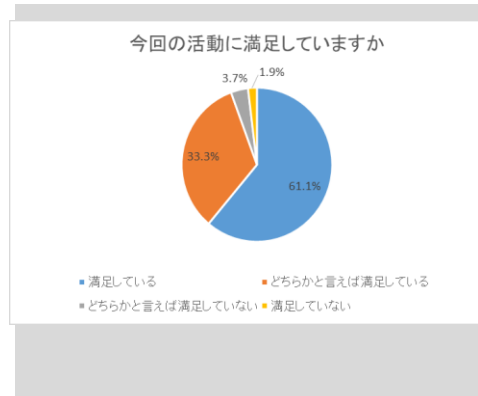
Q. 今回のモデル事業の活動を通して、楽しさを感じることはできましたか？



Q. 今回のモデル事業の活動を通して、他校の生徒と一緒に活動することについて、どう思いましたか？



Q. 今回のモデル事業に、あなたは満足していますか？



### ● 参加者の声

#### 中学2年生（ソフトテニス）

とても楽しかったけれど、休日に親に負担をかけることが申し訳なかった。技術向上になったと感じている。指導者の方に頂いたことが自分のプレイに活かすことができてよかった。

#### 中学2年生（ハンドボール）

他校と交流することが出来てよかったです。また、自分の実力をあげることが出来たと思いました。

今回のモデル事業で教えてもらったことをチームのみんなに伝えていきたいです。

#### 指導者（ハンドボール）

現在は国の助成金で運営や取りまとめが出来ているが、その後の運営、継続が課題になるので、その辺りのアイデア等の共有やセミナーなどあれば、より地域移行が見えてくると思いました。

#### 保護者（ソフトボール）

顧問の先生から教えていただけない細かい技術など丁寧に教えていただいたり、技術面だけでなく日頃の行動もご指導いただき、子どもたちにとってとても良い経験になったと思います。

## アンケート結果・広報資料

本市発行の広報2月号において、部活動地域移行に関する特集を掲載した。

「今なぜ部活動改革が必要なのか」、「部活動の地域移行とはどのようなことか」、「地域移行すると何が変わるのか」、等について啓発するとともに、今年度実施したモデル事業（ソフトテニス、ハンドボール、卓球、ソフトボール）の様子を紹介した。

### 学校から地域へ 新たな部活動のかたち

**中** 学校での「学校部活動の地域移行」が、全国向けに進められています。背景にあるのは、急速に減少している、中学生の部活動です。近年、学校は生徒数・児童数が減少し、さらには教員数も減少してきています。そのことにより、学校部活動は「人数が足りないチームが継続できない」、「質の高い部活動が実施できない」、「専門的な指導ができる教員がいない」などの課題を抱えています。これらの課題を解決するために、休日の学校部活動を地域に移行することで、子どもたちが習得しやすくなるスポーツや文化・芸術活動に魅力のある活動を実施していくという取り組みが進められています。

**休日の学校部活動の地域移行**  
これまで中学校教員が顧問となり学校主導で行ってきた部活動も、地域の方などが行う仕組みに移行することで「学校部活動の地域移行」となります。本市は、今年度10月以降、土・日曜日や祝・祭日は、地域や民間団体が運営する「休日の部活動」に移行する予定です。

**休日の学校部活動の運営体制の変更点**

- 顧問体制** 学校 → 地域やスポーツ施設団体、文化施設団体 など
- 活動場所** 学校 → 習熟した場所
- 指導者** 教員 → 地域の指導者

**地域移行のメリット**

- 多様性** さまざまな部活動を開設でき、より専門的な指導を受けやすくなります。
- 指導** 地域の方と子どもたちが交流する機会が増え、指導の質も向上します。
- 普及** 家庭が生活と向き合う時間や、交流の機会を増やす効果が期待できます。

**地域移行のQ&A**

**Q** 「休日の部活動」は、どのような活動があるの？  
**A** スポーツ活動、文芸・音楽活動、美術・行事・地域活動などが多く、子どもたちが自由にやりたい活動を自分ペースで選択することが可能です。

**Q** 「休日の部活動」に参加する場合はどのような費用が必要？  
**A** 活動内容によって異なりますが、自費費や交通費、指導者の報酬などが発生しています。

**Q** 大会やコンクールへの参加はどのようになりますか？  
**A** 活動内容は、今年度実施が予定されている大会に準じた活動として参加することができます。文化祭については、施設利用料がかかります。

**休日の活動を東鑑に体験**  
今年度10月から実施される「休日の部活動地域移行」に向けて、東鑑が、モデル事業として活動を実施しています。今年度はハンドボール・ソフトテニス・ソフトボールの4種目で、各中学校から参加希望の生徒が集まり、地域の指導者を地域団体から公募して、自費での指導者も、モデル事業に参加した生徒が活躍の場です。

**ハンドボール**  
**生徒一人一人を大切に**  
時代に合わせた育成方法があるため、中学生レベルアップを念頭に指導トレーニングを考案して実施しています。選手個人で指導が行っている子にはその子にあったメニューを考案するなど、生徒一人一人の状況に応じて丁寧に指導することを実践しています。

**ソフトテニス**  
**練習を楽しく高身長で楽しめよう**  
コート幅が広い、ボールはたくさん飛んでも構わないことを強調して、練習を行っています。中学校の指導を踏まえて練習を行うので、高身長の子や指導者の少ないなど、いろいろなプレーを見てもらう機会になります。練習を楽しくて二人対戦をやってもらい、ここで体験したことを中学校でフィードバックして、先輩選手と切磋琢磨していったらいいです。

**選手指導でアドバイス**  
休日に指導しながら自分たちも一緒にプレーし、ソフトボールの楽しさを伝えています。指導の際は、選手自身でプレーのアドバイスをしています。その際、すでに習得しているだけでなく、どうしたらプレーが伸びやすいかなど、自分たちで考えてもらうことを重視しています。

**卓球**  
**生徒の個性に合わせて指導**  
日中体の疲れが、練習や試合など、プレーにおいて大切な戦力がたくさんあり、生徒によつて打ち方が異なるため、練習メニューが、生徒それぞれの個性に合わせて異なるように調整しています。生徒との距離感が大切に、話しやすい雰囲気作りを心がけています。

**ソフトボール**  
**今度の秋に選手になる児童・生徒を募集**  
今年度の秋に選手になる児童・生徒を募集しています。今年度は、ソフトボールの楽しさを伝えるだけでなく、選手としての指導も行う予定です。

**ソフトテニス**  
**今年度の秋に選手になる児童・生徒を募集**  
今年度の秋に選手になる児童・生徒を募集しています。今年度は、ソフトテニスの楽しさを伝えるだけでなく、選手としての指導も行う予定です。

## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



【三重バイオレットアイリス選手が指導する  
ハンドボールモデル事業】



【鈴鹿市卓球協会指導者によるモデル事業】

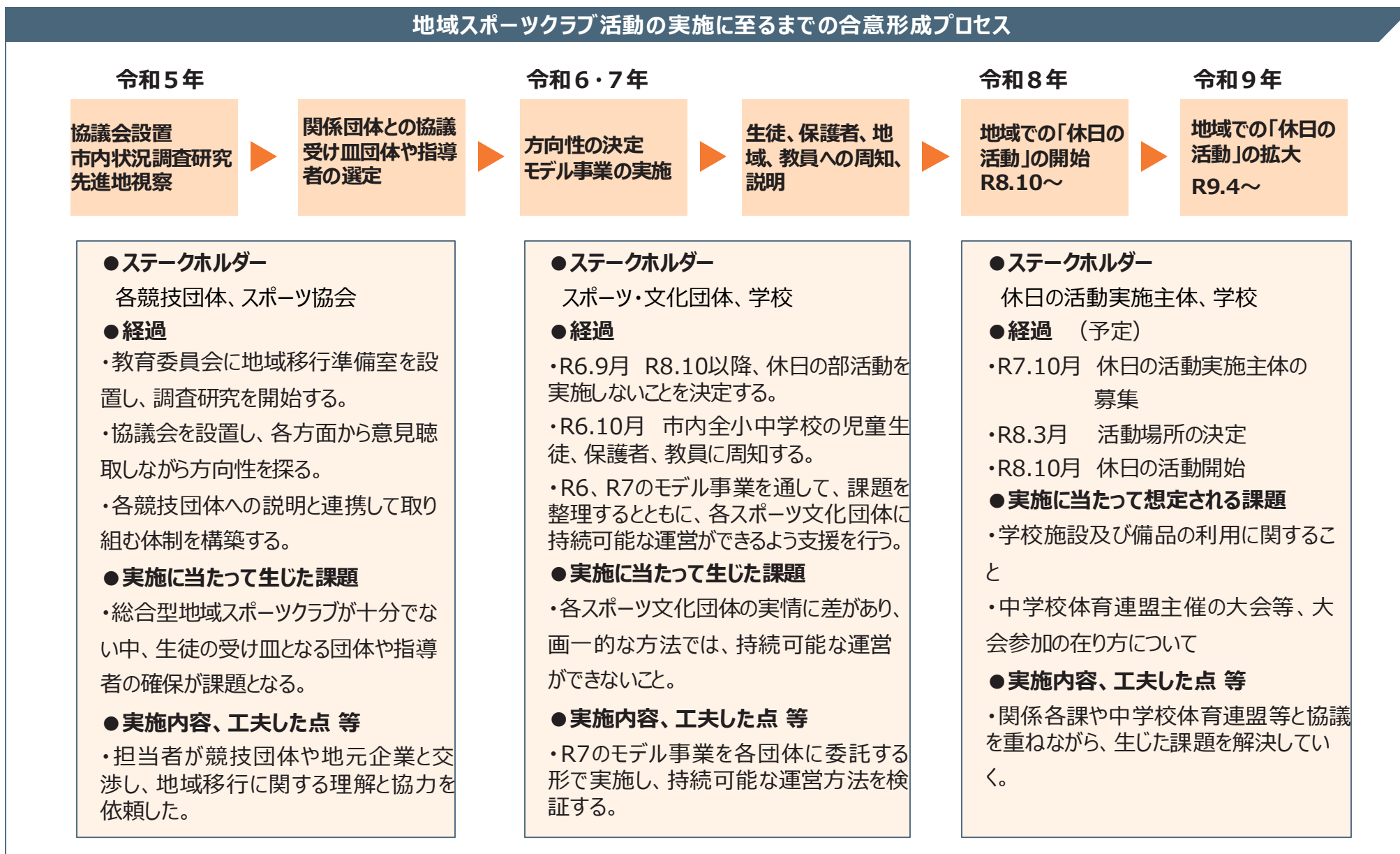


【鈴鹿市で活動するソフトボールチーム  
「ルチアーノ」によるモデル事業】



【鈴鹿市ソフトテニス連盟指導者によるモデル事業  
】

## 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



# 3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

国 (スポ庁) (文化庁)	改革推進期間 R5～R7			改革実行期間前期 (R8～R10)	改革実行期間後期 (R11～R13)
	時期	R5	R6	R7	R8
平日	学校部活動	学校部活動	学校部活動	学校部活動	学校部活動 地域での活動(未定)
休日	学校部活動 協議会設置 モデル事業(1種目)	学校部活動 モデル事業(4種目)	学校部活動 モデル事業(14種目)	地域休日の活動 R8. 10移行完了	地域休日の活動

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 三重県 志摩市

自治体名：三重県志摩市

担当課名：生涯学習スポーツ課

電話番号：0599-44-0339

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

面積	178.95 km <sup>2</sup>
人口	44,019 人
公立中学校数	6 校
公立中学校生徒数	901人
部活動数	38 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	推進計画準備中 ガイドライン策定済

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

志摩市には、中学校が6校あり、今後生徒数推移としては、令和7年度には900名を下回り、令和10年度以降はさらに減少傾向が進むとされている。

現在市内には6校38部活あるが、令和9年度には5校となる方向で進んでおり、中学校によっては生徒数に応じ、運動部活動8種目、文化部活動2種目の計10種目選択肢のある学校もあれば、運動部のみ2種目しかない学校もある状況である。

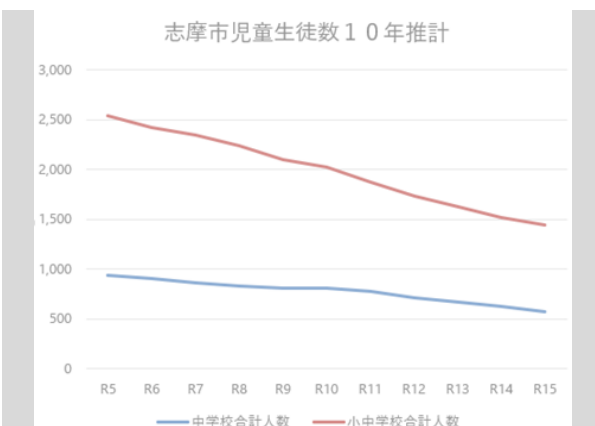
当市は半島地域にあり、5町が市町村合併で市になった経緯があるため、中学校が点在してお

り、拠点を設定して活動する際も「移動時間」や「移動手段」が1番の課題となっている。

また、学校部活動と地域クラブ活動の大きな違いとなってくる「受益者負担」に関しても保護者の理解がなければ、前述の課題と合わさること、より休日の地域クラブ活動に取り組む子どもの減少につながる懸念される。

「指導者確保」についても、総合型地域スポーツクラブや市スポーツ協会、市スポーツ少年団など各種団体と連携して資格や研修会等課題に取り組む必要がある。

志摩市児童生徒数10年推計



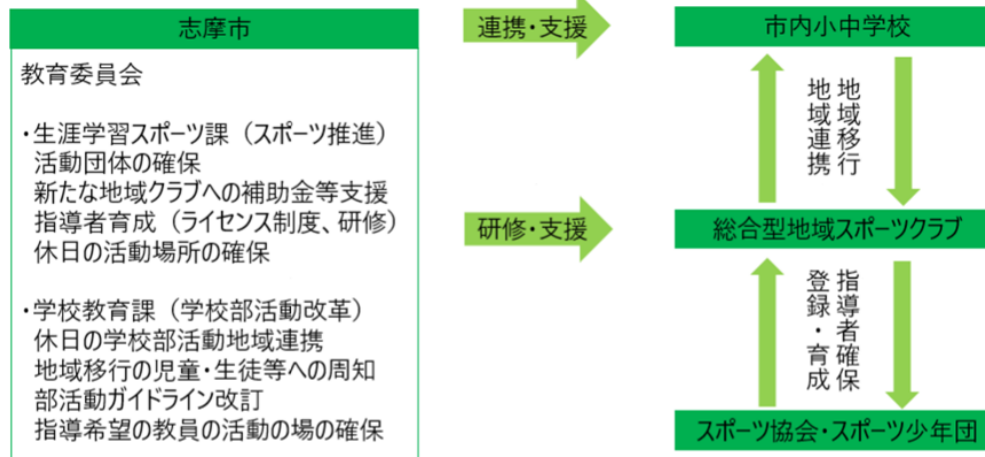
令和6年度市内中学校(1・2年生)部活動所属状況 2024年7月30日現在

令和6年7月現在	志摩中学校		大玉中学校		東海中学校		文島中学校		浜島中学校		磯部中学校		市内種別別部員数										
	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年											
野球	0	0	7	0	1	0	3	0	10	0	2	1	7	0	10	0	58						
サッカー																	14						
バスケット	7	5							6	6	3	9	3	4	9	3	76						
バレーボール	4	4			5	7											62						
陸上	7	4	5	5					3	6	12	7					63						
ソフトテニス	4	4							9	3	10	15	4	5	3	2	2	64					
卓球	7	3	3	5	5	3	10	4	13	9	3	4	18	9	5	2	4	108					
バドミントン																		33					
乗馬	0	9	0	5					0	5	0	4	1	6	1	7	50						
アスバウンド									1	7	1	5	2	16	3	10	57						
男女別合計	21	24	20	23	6	6	13	13	32	29	15	22	44	73	72	62	8	4	6	4	24	21	20
学年総計	45	43	14	26	61	37	117	134	12	10	45	41											

## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会（生涯学習スポーツ課・学校教育課）

- ・活動団体の確保
- ・新たな地域クラブへの補助金等支援
- ・指導者育成（ライセンス制度、研修）
- ・休日の学校部活動地域連携、地域移行の児童、生徒等への周知
- ・指導者を希望する教員の活動の場の確保
- ・休日の活動場所の確保

##### ◎首長部局

- ・予算措置

### 年間の事業スケジュール

令和6年4月	地域移行（サッカー）活動開始
令和6年8月	第1回学校部活動在り方検討会開催
令和6年9月	アンケートの実施（小中学生）
令和6年10月	第2回学校部活動在り方検討会開催
令和6年11月	スポーツ等体験会開催
令和7年2月	第3回学校部活動在り方検討会開催
令和7年3月	事業管理用報告・成果報告

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	6校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（6部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	11人	全体の運営スタッフ数	1人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
一般社団法人クラブ志摩	総合型地域スポーツクラブ	サッカー	月3回程度	9:30～11:30	小6 1人 1年 4人 2年 21人 3年 6人	R6.4.1～R7.2.28	志摩市長沢多目的広場	11人	1人	なし	中体連：地域クラブ

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

●現状市内中学校で活動しているスポーツ系10種目文化系2種目にプラスして事前アンケートで希望が多かったダンスを含めた11種目について、小学4～6年生と中学1～2年生を対象に体験会を実施。生徒児童約80人、保護者と指導者合わせて約120人ほどが地域移行後の休日の活動を体験しイメージすることができた。

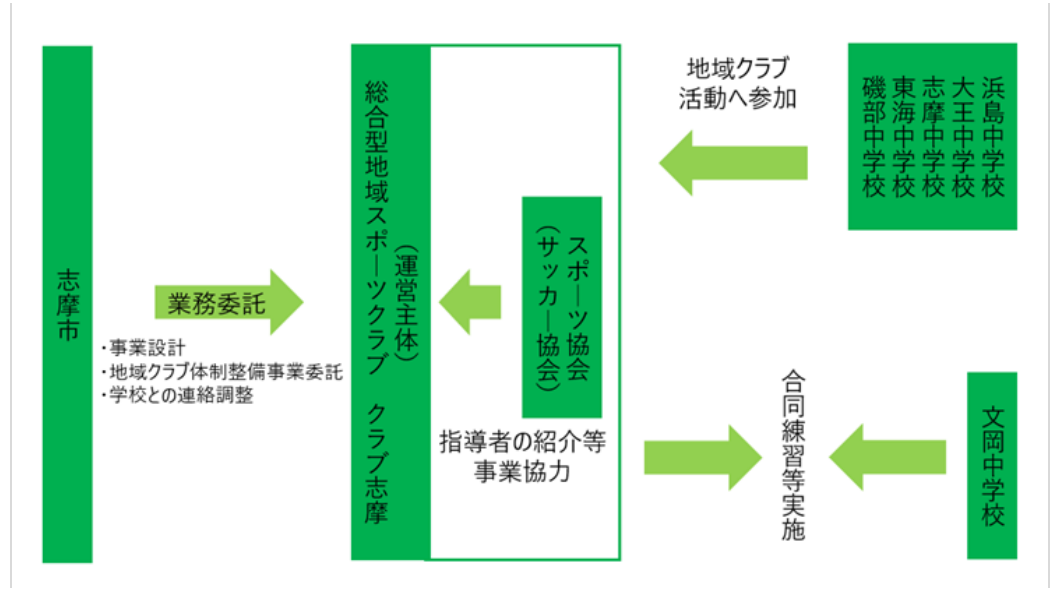
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ●一般社団法人 クラブ志摩 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	一般社団法人 クラブ志摩
期間と日数	サッカー：4月1日～2月28日 月3回程度
指導者の主な属性	総合型地域スポーツクラブ登録指導者
活動場所	志摩市長沢多目的広場
主な移動手段	自転車、公共交通機関、保護者送迎等
1人あたりの参加会費等（年額）	39,000円（クラブチーム登録し、試合に出場する場合）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

#### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



#### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

##### ●クラブマネージャー

役割：指導者の派遣やスケジュール管理、経理、各所連絡調整を行う

##### ●主任指導者 3名

役割：基礎・対人トレーニングやゲーム形式などのメニュー構成を行う

##### ●指導補助者 8名

役割：主任指導者の指揮のもと練習メニューの補助を行う

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

学校部活動の地域連携・地域展開を進めるための中心的な役割を担うコーディネーター等を配置し、関係団体・市・学校等の連絡調整・指導助言等を行うとともに、運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材確保などの組織体制の整備を行い、地域と学校が連携した持続可能なスポーツ活動の基盤を築き、子どもたちが多様なスポーツに親しめる環境の整備に取り組む。

##### 取組の成果

コーディネーターについては、関係団体・市・学校等との連絡調整、助言指導を行い、課題解決に取り組んだ。  
また志摩市学校部活動在り方検討会を3回開催し、部活動ガイドラインの改定や専門部を設置するための検討会設置要領の改定を行ったり、児童生徒へアンケート調査を行い体験会実施に取り組んだ。

##### コーディネーターの具体的な動きの実績

総括的コーディネーターとして、行政職員と教員から教育委員会に出向してきている職員がスポーツ団体や学校等との連絡調整や指導助言を行い、令和7年度から新たな地域スポーツクラブ（野球）の立ち上げのサポートを行った。

##### 今後の課題と対応方針

現在は、サッカー1種目をモデルとして取り組んでいるが、学校部活動が現状ある部活動については、地域移行することで生徒たちに多大な負担がかかることが予想されることから、志摩市学校部活動在り方検討会において、しっかり方向性を示していく必要がある。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

##### 取組事項

スポーツ協会やスポーツ少年団などの競技団体等と連携し、指導者を確保する。

また県の人材バンク等の支援も活用して指導者確保に努める。

##### 取組の成果

現在取り組んでいるサッカー種目については、指導者の繋がりやサッカー協会やスポーツ少年団など関係団体を通じて連携し、確保することができた。また、クラブも積極的に指導者にライセンスを取得させるなど、質及び量の確保に努めた。

##### 今後の課題と対応方針

今後、受け入れ団体によって指導者の質や量の確保はばらつきが出てくる中で、ある一定の水準を定めていく必要があると考えるが、資格まで求めるとなると、指導者確保が困難になる種目も出てくるのが危惧される。

指導経験や実績、講習会・研修の受講など、指導者を確保する上での多角的な水準設定を検討することや、資格取得に係る費用助成等の支援のほか、意欲がある人材を指導者の補助として積極的に活用するなど、指導経験を積ませる機会を提供することも重要となる。

各競技団体と緊密に連携し、各競技の特性に応じた指導者像、水準を検討していく。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

**ウ：関係団体・分野との連携強化**

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

スポーツ協会やスポーツ少年団などの競技団体等と連携し、競技基準やルールの改正、コンプライアンスなど、情報共有できるように連携する。

##### 取組の成果

学校部活動の地域連携・地域展開を進める上で不可欠となる関係団体・分野との連携強化を図るため、スポーツ協会やスポーツ少年団などの競技団体等と連携し、競技基準やルールの改正、コンプライアンスなど、情報共有を行った。

各種団体における競技基準、ルール、大会開催方法等が多岐にわたっている現状を踏まえ、子どもたちが地域クラブ活動に参加しやすくなるよう、これらの情報を把握し各種団体との連携を強化することを目的とした。

具体的には各種団体の代表からなる「志摩市学校部活動在り方検討会」を情報共有の場とし、現状把握、課題提起ほか、意見交換を行った。

##### バス等の運行実績

実施していない。

##### 今後の課題と対応方針

各競技団体による基準やルール設定、大会開催など各競技によって様々であることから、子どもたちが関わりやすくなるよう把握していく必要がある。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実①

##### 取組事項

市内の学校にある競技等の部活動ができる環境を確保し、新たなニーズへの対応など、様々なスポーツに親しむ機会創出に取り組む。

小学4～6年生・中学1～2年生に市内の現状部活動を知り、体験することで保護者や指導者も含め、将来の休日スポーツ活動の姿をイメージしてもらう。

活動の詳細			
参加人数	約80人	指導者数	約20人
属性	スポーツ等体験会		
具体的な内容	小学4～6年生・中学1～2年生の希望者を対象に市内の中学校で行うことができる運動部8種目文化部2種目と事前アンケートで希望が多かったダンスについて、総合型スポーツクラブやスポーツ協会・スポーツ少年団に指導者をお願いして体験会を開催。		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ずっとやりたかった吹奏楽の楽器が吹けてうれしかった。</li> <li>● 初めてだったけど、最後には完璧にできたので楽しかった。</li> <li>● 運動できて楽しかった。</li> <li>● 教え方も上手でたくさんできたので楽しかった。</li> </ul>		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 部活が減り、やりたい・やってみたい部活がなく今回のような体験会があってありがたい。</li> <li>● やりたい種目を転校しなくても、休日だけ参加できるようになっていってくれるとうれしい。</li> <li>● 休日部活動の地域移行に関して認知が少ないために参加人数が少ないと感じた。</li> <li>● こういった体験会を通じ、多くの競技に参加してくれる小中学生が増えると感じた。</li> </ul>		
運営経費	今回スタッフ及び指導者についてはすべてボランティアで実施。		

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実②

##### 取組の成果

参加した小中学生80人及びその保護者を対象としたアンケートの結果、回答者の94%が満足と回答。個別の会場や日程・時間、指導者についても90%以上が満足と答え、今後もこのような体験会に参加したいかとの問いにも89%がそう思うと答えた。

参加人数については、対象の6%弱とかなり少なく、周知の際の説明不足もあるが、中学生については既に部活動に加入しており、地域移行も令和8年度以降ということで意識が低く参加に繋がらなかったと感じた。

##### 今後の課題と対応方針

今後の課題としては、参加者やその保護者からは満足度が高かったが、参加人数がかなり少なかったため、次年度も開催するとなった際には、丁寧な周知文の作成が必要と感じた。

また、今回は志摩市で1箇所での開催としたが、志摩市学校部活動在り方検討会でも課題として挙げられている移動時間や移動手段がネックになった可能性もあり、やはり地域移行後に活動する場合は志摩市で拠点1箇所では難しいと感じたため、休日だけでも市内の中学生在が同じだけの部活動種目を選択できる環境整備に向けて複数拠点で検討していく必要がある。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

##### 取組事項

公平な費用負担や民間企業等からの寄付など、多角的な財源確保の在り方について検討を行う。

就学支援世帯等とその他世帯との費用負担の格差が生じないよう、不公平感のない受益者負担の制度設計を行うほか、地域展開による費用の増加が懸念されることから、民間企業等からの支援協力についても検討を進める。

##### 取組の成果

志摩市学校部活動在り方検討会の委員に商工会長を選任し、経済団体を通じた連携・支援等を想定し、連絡調整できるように取り組んだ。会議でも常に費用面の課題があがるが、常に地元経済団体としても支援を前向きに検討していく旨の発言をしてもらっている。

##### 今後の課題と対応方針

地域移行が進むことで必要経費は増大することから、民間企業や経済団体からの支援協力は必要である。

また、就学支援を必要とする世帯とその他の世帯との費用負担の差など不公平感のない受益者負担を検討しなければ、活動に取り組む子どもがさらに減少する恐れもあり、慎重な制度設計が求められる。

多様な財源確保の推進と支援制度の具体化に向けた検討を進めるとともに、公平性を考慮しつつ、誰もが気楽に活動に参加できるような受益者負担の制度設計に取り組む。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
**キ：学校施設の活用等**  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 キ：学校施設の活用等

##### 取組事項

学校施設や備品等を地域移行後のクラブが活動を実施する際の利用ルールを策定する。

##### 取組の成果

地域展開の実施に関連する費用負担の軽減に向けた保護者からの具体的な要望に対し、総括コーディネーターとしてクラブと学校の間に入り調整を図った。

令和7年度から地域スポーツクラブ（野球）が立ち上がるが、廃部となる学校の野球部が所有していた備品や道具を譲渡してもらい、地域展開に係る初期費用やランニングコストを軽減したいとの保護者からの要望があった。この要望に対し、総括コーディネーターとして、地域スポーツクラブ（野球）と学校の間に入り具体的な調整を行った。

##### 今後の課題と対応方針

現在は学校部活動と地域移行が混在し、施設利用の優先順位や既存の備品使用など学校ごとのルールの違いがある中、市全体としてのルールを設定する必要がある。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

志摩市の今後の生徒数は全国の過疎地域と同様、減少の一途をたどり、現在6校ある中学校は将来的には統廃合せざるおえない状況になると考えられるが、地理的な要因もあり一足飛びにはいかず、段階的に進めていくこととなる。そのような環境の中、市内の中学生が平等に種目を選択することができるよう、志摩市学校部活動在り方検討会の場で議論を重ねているが、移動手段や移動時間・受益者負担や指導者の確保など課題が山積しており、解決策も見いだせない状況であるのが実情である。

#### ●成果の評価

今年度については、スポーツ等体験会を開催できたことが大きな成果であり、多くの課題や反省点は出たものの、参加者や保護者へのアンケートでは満足度が高く、次年度以降再度実施する際には、今年度の課題や反省点を踏まえ、より良い体験会を開催できるものと考えられる。

また、地域移行には教員はもとより総合型地域スポーツクラブ・スポーツ協会・スポーツ少年団などが共通認識のもと進めていくことが重要であり、会議で各団体の代表が出席し議論はしているが、現場の指導者が体験会を通じ、将来の活動のイメージを共有できたことで、地域移行にかかわる関係者の意識を高められた。

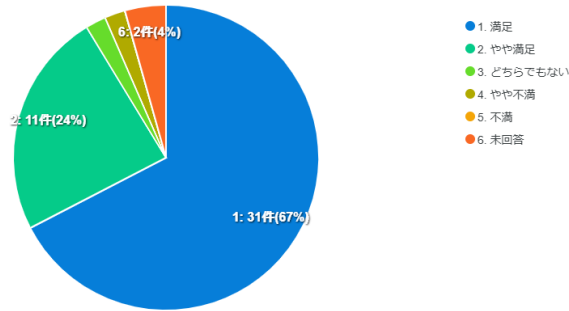
#### ●今後に向けて

今年度の志摩市学校部活動在り方検討会で要領の改正を行い、指導者部会の立ち上げを前提に専門部の設置を可能にしたので、来年度以降は指導者の質や量の確保については、指導者部会で重点的に協議できる体制をとり、関係団体や県の人材バンクとの連携を図りながら、取り組みを進めていく。

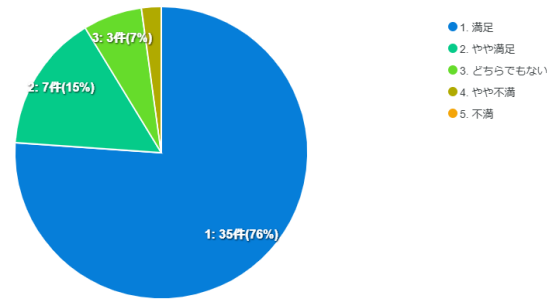
## アンケート結果・参加者の声

### ●アンケート結果

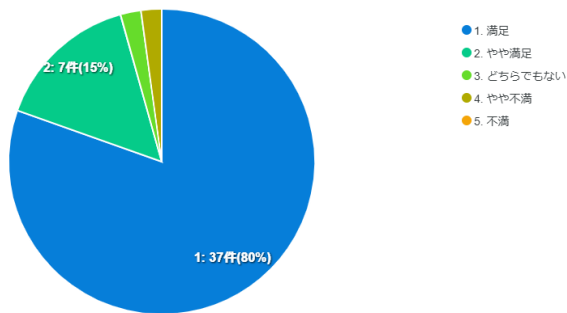
Q.体験会の取組みについて、どの程度満足いただけましたか。



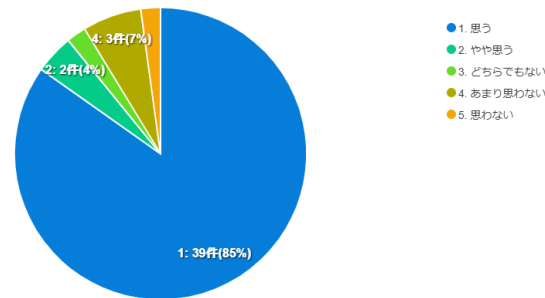
Q.体験会の日程や時間について、どの程度満足いただけましたか。



Q.体験会の指導者について、どの程度満足いただけましたか。



Q.今後もこのような体験会に参加したいか。



### ●参加者の声

#### 体験会参加者

違う学校の子供達と交流ができて楽しかった。  
 すごく楽しくて、やさしく教えてくれた。  
 色々体験できて楽しかった。

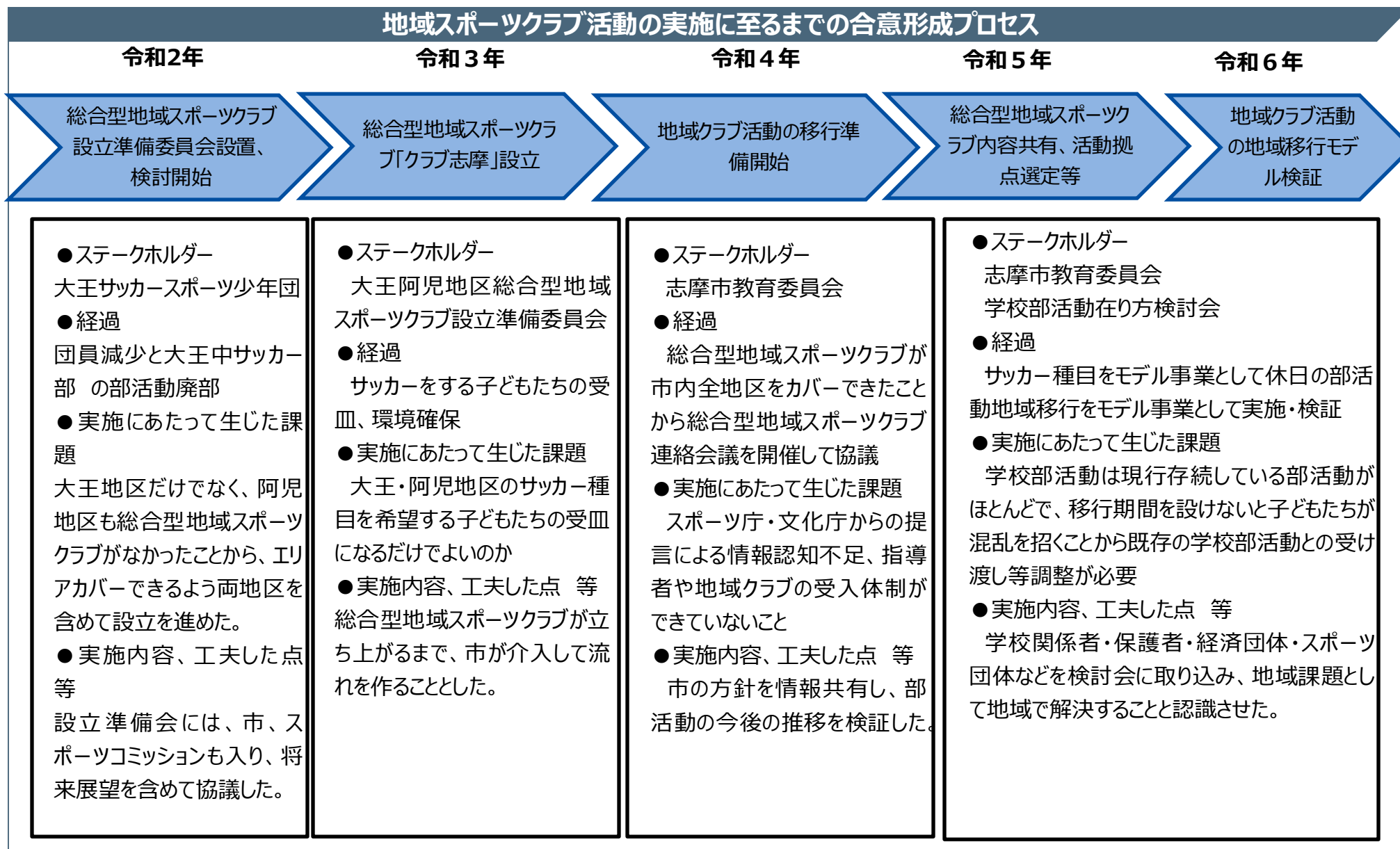
#### 保護者

子供たちが楽しそうにしていた。  
 丁寧に楽しく指導していただけた。  
 普段体育の授業だけなのでスポーツを体験できたのは子供にとってよかった。  
 ほかにまわりたいところがあったようなので、もっと時間がほしかった。  
 学校も人数が少なく、子供も好きな部活を選べないので地域移行は良いことだと思うが、送迎が大変そう。

#### 指導者

バレーボールのみ別会場であったため、移動する必要があったのはデメリットであった。  
 今回の体験会が何の目的で行われたのかももっと参加者に説明が必要であった。  
 志摩市の地域移行のビジョンが伝わってこない。  
 地域移行していく際には指導者は資格保持者が担うべきである。  
 地域移行に対する予算措置はどうなっていくのか。

## 2.実証内容と成果



# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
<b>部活動</b> ・運動部8種目 ・文化部2種目	* 現行部活動継続 * 存続していない部活動も 選択可（活動は休日のみ）		* 国の動向も含めて 継続して地域移行検討		
<b>地域クラブ 受入団体</b> ・総合型地域SC ・スポーツ協会 ・スポーツ少年団 他	* 文岡中以外のサッカー種目 * 受入できる他種目検討				